

幌延町教育施設長寿命化計画

令和4年3月

幌延町教育委員会

目 次

第1章 教育施設長寿命化計画の背景・目的等	1
1 背景	1
2 目的	1
3 計画期間	1
4 対象施設	1
5 計画の位置づけ	2
第2章 教育施設の目指すべき姿	3
1 町の教育行政方針	3
2 学校施設の目指すべき姿	5
第3章 教育施設の実態	8
1 教育施設を取り巻く状況	8
2 教育施設の状況	16
3 施設の利用状況	19
4 児童生徒数の推移・将来推計	20
5 施設関連経費の推移	21
6 教育施設の老朽化状況の実態	23
第4章 教育施設整備の基本的な方針等	39
1 教育施設全体の基本方針	39
2 学校施設の基本方針	39
3 社会教育施設・社会体育施設の基本方針	42
4 改修等の基本的な方針	48
5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等	53
第5章 長寿命化の実施計画	54
1 優先順位の考え方	54
2 施設管理の長期的見通し	55
3 計画期間内の実施計画	55
4 長寿命化のコストの見通し・長寿命化の効果	56
第6章 長寿命化計画の継続的運用方針	57
1 情報基盤の整備と活用	57
2 推進体制等の整備	57
3 フォローアップ	57

第1章 教育施設長寿命化計画の背景・目的等

1 背景

平成 25 年 11 月に策定された「インフラ長寿命化基本計画」（インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議決定）において、各インフラの管理者及び当該インフラを所管する国や地方公共団体の各機関は、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにする計画として、「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定することとされました。幌延町は、このことを踏まえ、域内のインフラ全体における整備の基本的な方針として平成 28 年度に「幌延町公共施設等総合管理計画」を策定したところです。

その後、さらに各地方公共団体は、公共施設等総合管理計画に基づき、個別施設毎の具体の対応方針を定める計画として、個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）を策定することとされました。

このうち、特に、域内の学校施設等を対象として、基本的な方針に基づく実際の整備内容や時期、費用等を具体的に表す計画が「教育施設長寿命化計画」となります。

2 目的

本計画は、教育施設の中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び予算の平準化を図りつつ、教育施設に求められる機能・性能を確保するため、施設毎の中長期的な方針を示すことを目的として策定します。

3 計画期間

計画期間は令和 4 年度から令和 13 年度までの 10 年間とします。

また、進捗状況等を踏まえ 5 年程度で見直すものとします。

4 対象施設

本計画の対象施設は、教育関連施設 14 施設とします。

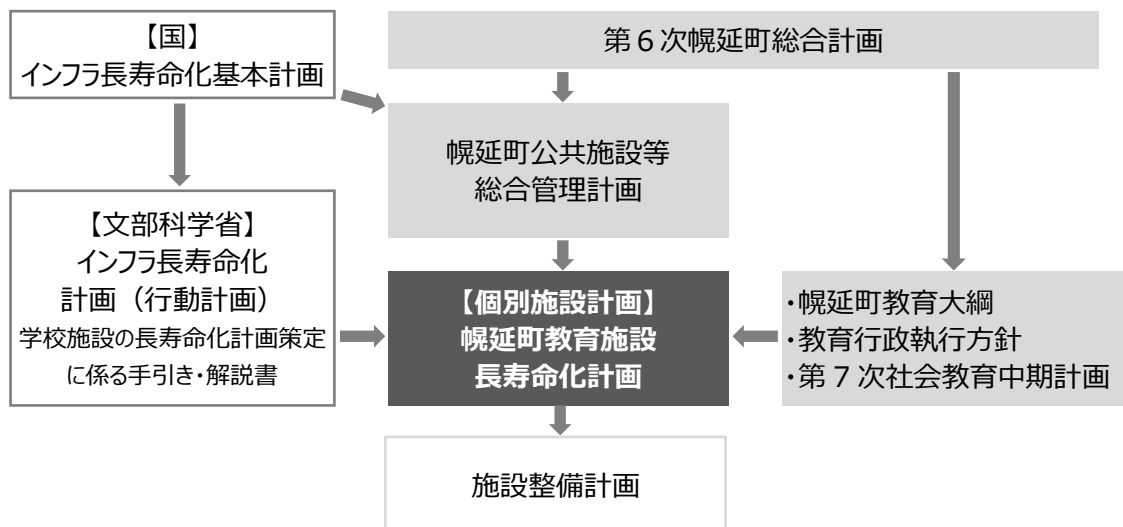
※対象施設概要は後述 16 ページ参照

5 計画の位置づけ

本計画は、町の最上位計画の「第6次幌延町総合計画」を受け、上位計画である「幌延町公共施設等総合管理計画」の部門別個別施設計画として位置づけます。

文部科学省では、学校施設環境改善交付金の交付を受けようとする地方公共団体に対して施設整備計画の提出を義務付けています。この施設整備計画は、本計画に基づくものであることが求められています。

図 1-1 計画の位置づけ



第2章 教育施設の目指すべき姿

1 町の教育行政方針

(1) 第2次幌延町教育大綱（令和2～6年度）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴い、地方公共団体の長は、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるもの」とされ、平成27年度に第5次幌延町総合計画後期基本計画に基づき、「心豊かな人と文化を育むまちづくり」を目標とした「幌延町教育大綱」を定めました。

この度、第6次幌延町総合計画が令和3年3月に策定されたことから、その前期基本計画の骨子をもって、第2次幌延町教育大綱を定めることとします。

目標
「生きる力と文化を育む（教育・文化）」 第6次幌延町総合計画の幌延町の将来像である「共に拓き、共に創り、未来へつなぐ！～笑顔と希望に満ちあふれるまち ほろのべ～」を目指して、教育分野においては、子どもたち一人ひとりの能力を最大限伸ばす質の高い学校教育の充実に加え、情報化・国際化や環境教育等、地域資源を活かしつつ時代に沿った特色ある教育を推進するとともに、町民一人ひとりが自らの興味・関心に応じ、主体的に学習活動やスポーツ活動、文化活動等に取り組み、親しむことができる環境づくりに努めます。

基本施策
1 学校教育の充実 ●「社会に開かれた教育課程」の実現のため、コミュニティースクール（学校運営協議会制度）を活用し、学校と地域が協働で子どもたちを育みます。 ●児童生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力・判断力・表現力等を育みます。 ●児童生徒一人ひとりの主体的に学習に取り組む態度を育成するため、9年間を通じた系統的な教育を目指す小中一貫教育を推進します。 ●幼児教育と学校教育の円滑な接続に向けた取組の充実を図ります。
2 生涯学習の推進 ●幼児から高齢者までの生涯の各ステージにおいて、多様なニーズに応えた学習機会や情報提供などの体制整備を進めます。 ●町民による主体的な生涯学習活動の支援に努めます。 ●学校、家庭、地域、行政が一体となって青少年の健全育成に取り組むとともに、体験交流活動や社会活動への参加を促進し、関係団体や指導者の育成に努めます。
3 スポーツの振興 ●各種大会や教室を実施し、体力の向上や健康の維持に努めます。 ●参加者が減少傾向であるため、だれでも参加しやすい環境づくりに努めます。 ●会員の高齢化や団員の減少に伴い、団体スポーツの実施が困難になってくることから、少子高齢化に対応した活動の活性化を促進します。 ●利用者の安全を確保するため、社会体育施設の補修や改修を進めます。
4 芸術・文化の振興 ●地域に根ざした自主的な文化活動に対する支援を図り、町民の主体的な運営による文化活動を促進します。 ●先人たちにより築き、受け継がれてきた歴史的に貴重な文化遺産の保存・調査を推進します。 ●郷土資料の収集・整備や郷土芸能の後継者育成と伝承に努めます。

(2) 令和4年度教育行政執行方針

以下に「令和4年度 教育行政執行方針」の教育施設整備関連部分を抜粋します。

(教育施設整備関連部分抜粋)

第1 学校教育

子どもたちがこれからの時代を生きていくために必要となる資質・能力を発達段階に応じて、確実に身に付けさせることが重要です。そのため、学習指導要領の趣旨・内容を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善やICTの効果的な活用を図り、個別最適な学びや協働的な学びの充実に努め、小中の系統的・連続性を踏まえた学力保障の取り組みを推進します。

9. 安全安心な教育環境の推進と就学支援

学校においては、安全教育や安全管理の充実に努め、児童生徒の安全・安心を確保することが重要です。

このため、交通安全や防犯・防災教育の充実に努め、児童生徒の安全確保に努めます。また、PTAや幌延町青少年健全育成連絡協議会、幌延町通学路安全推進協議会等の関係機関との連携・協働により、子どもたちを危険から守る取組に努めます。

学校施設や給食センターの修繕、維持管理に努め、子どもたちの快適で安全な教育環境を確保します。スクールバス整備事業では問寒別地区に配置している「こぞくら号」を更新します。

また、小中一貫教育の推進と今後の学校施設の在り方について検討を深めます。

さらに、経済的理由により就学支援を必要とする保護者に対しては、学用品費や給食費等の援助制度の活用、進学する学生に対しては、奨学資金制度の活用啓発に努めます。

第2 社会教育

町民一人一人の自主的な学習や町民相互の学習活動、地域活動は、地域の連帯や教育力を高め、豊かな暮らしを支える基盤となるものです。その推進を図るため、「幌延町第7次社会教育中期計画」の5つの柱に基づく社会教育事業を推進します。

5. 学習活動の拠点づくり

生涯学習活動を推進するためには、社会教育・文化・スポーツ施設の設備や機能を充実させることが重要です。

このため、幌延町生涯学習センターについては、隣接する国際交流施設と相互連携を図りながら、町民が利用しやすい施設運営に努めます。また、問寒別生涯学習センターについては、利用者のニーズを把握しながら、利便性のある施設運営に努めます。

図書室の利用促進については、「第2次幌延町子どもの読書活動推進計画」に基づき、企画展や読み聞かせ会、ブックスタートの実施、北海道立図書館のインターネット予約貸出サービスの活用を図ります。また、認定こども園や問寒別へき地保育所への移動図書室を実施するとともに、学校への図書の団体貸出の充実に努めます。

社会教育施設の改修については、今年度、総合スポーツ公園野球場の外構補修工事などを行います。

今後も安全で安心な施設の維持管理と施設運営に努めます。

2 学校施設の目指すべき姿

学校施設の目指すべき姿は、教育行政方針を前提としつつ、今後の学校施設整備の取り組みにおいて実現すべき目標像となります。

ここでは、参考として、文部科学省の「学校施設整備基本構想の在り方について」（学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議（平成 25 年 3 月））において示された学校施設の目指すべき姿及び文部科学省の令和 4 年度予算案「公立学校施設の整備」の概要を示します。

（１）文部科学省の「学校施設整備基本構想の在り方について」（平成 25 年 3 月）

1. 安全性

○災害対策

- ・地震に強い学校施設
- ・洪水・暴風等の自然災害に強い学校施設
- ・防災機能を備えた学校施設

○防犯・事故対策

- ・安全で安心な学校施設

2. 快適性

○快適な学習環境

- ・学習能率の向上に資する快適な学習環境
- ・児童生徒の学校への愛着や思い出につながり、また、地域の人々が誇りや愛着をもつことができる学校
- ・バリアフリーに配慮した環境
- ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間

○教職員に配慮した環境

- ・教職員に配慮した空間
- ・教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要な I C T 環境

3. 学習活動への適応性

○主体性を養う空間の充実

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間
- ・子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間
- ・社会性を身に着けるための空間

○効果的・効率的な施設整備

- ・習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間
- ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための I C T 環境
- ・各教科等の授業を充実させるための環境

○言語活動の充実

- ・各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間
- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのＩＣＴ環境

○理数教育の充実

- ・充実した観察・実験を行うための環境

○運動環境の充実

- ・充実した運動ができるための環境

○伝統や文化に関する教育の充実

- ・伝統や文化に関する教育を行うための環境

○外国語教育の充実

- ・外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間

○学校図書館の活用

- ・子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境
- ・調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間
- ・各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるためのＩＣＴ環境
- ・地域に開かれた学校とするための環境
- ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

○キャリア教育・進路指導の充実

- ・充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境

○食育の充実

- ・食育のための空間

○特別支援教育の推進

- ・バリアフリーに配慮した環境
- ・自閉症、情緒障害又はＡＤＨＤ等のある児童生徒に配慮した学校施設

○環境教育の充実

- ・地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール

4. 環境への適応性

- ・環境を考慮した学校施設（エコスクール）

5. 地域の拠点化

- ・安全で安心な学校施設
- ・バリアフリーに配慮した環境
- ・地域に開かれた学校とするための環境
- ・地域の生涯学習の拠点となる学校施設

(2) 公立学校施設の整備（文部科学省予算案）

令和4年度当初予算案

1 新時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策の一体的整備の推進 <ul style="list-style-type: none">■学校施設の長寿命化を図る老朽化対策■バリアフリー化、特別支援学校の整備■他施設との複合化・共用化・集約化
2 防災・減災、国土強靱化の推進 <ul style="list-style-type: none">■非構造部材の耐震対策等■避難所としての防災機能強化（トイレ改修等）
3 脱炭素化の推進 <ul style="list-style-type: none">■学校施設の ZEB 化（高断熱化、LED 照明、高効率空調、太陽光発電等）■木材利用の促進（木造、内装木質化）

第3章 教育施設の実態

1 教育施設を取り巻く状況

(1) 幌延町の位置

本町は、北海道の北部に位置し、北緯 45 度線上にあって北方圏のほぼ南端にあり、北は豊富町、猿払村、東は浜頓別、中頓別町、南は中川町、天塩町に接し、西は日本海に面しています。

本町の総面積 57,410ha のうち 63% を山林が占めていますが、標高は比較的低く、問寒別地区のイソサンヌプリ山 (581m)、知駒岳 (532m)、摺鉢山 (472m) のほかに高い山はなく、全体的に緩やかな傾斜となっています。

図 3-1 土地利用図

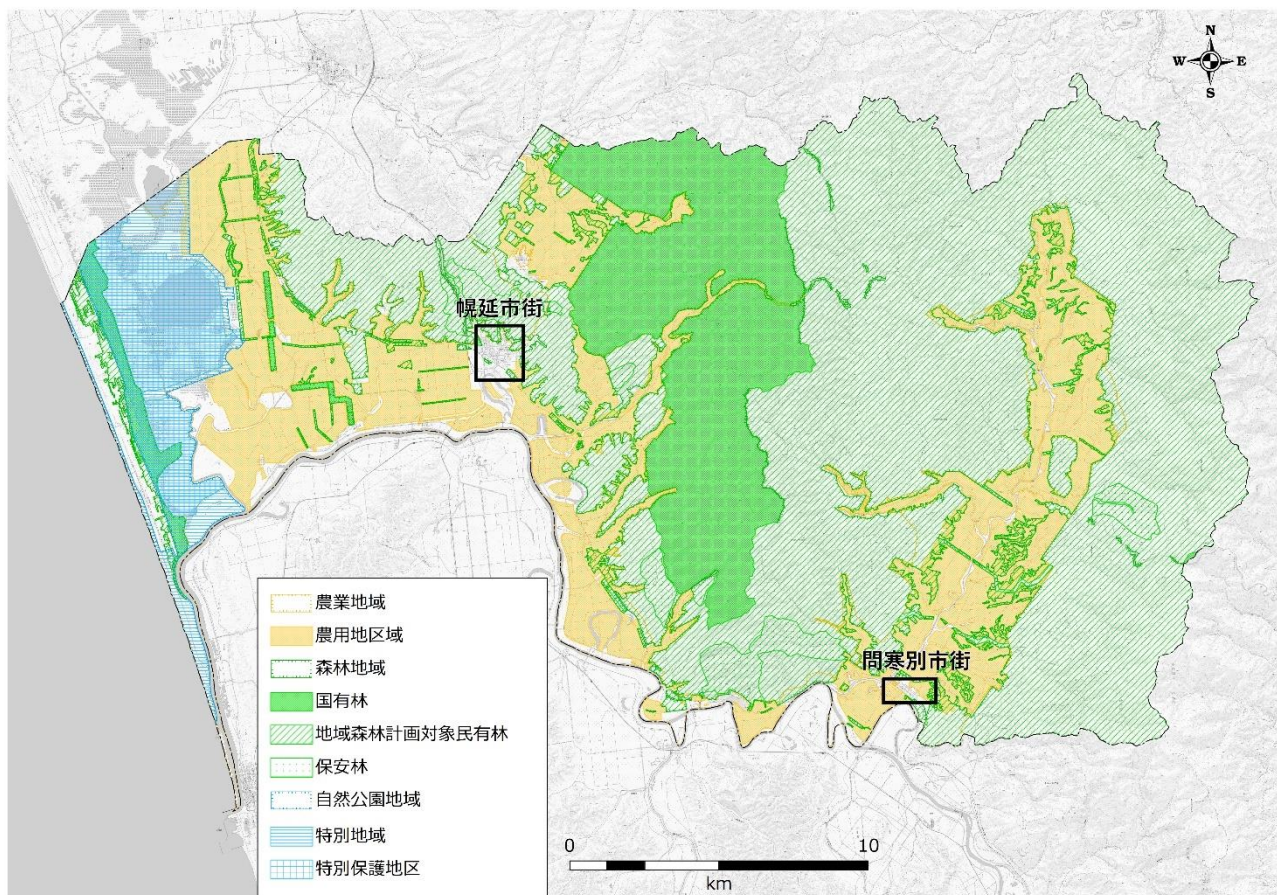


表 3-1 地目別面積

(単位: km²)

地目	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	合計
面積	81.60	2.65	4.44	365.27	8.47	79.38	5.95	26.33	574.10
	14.2%	0.5%	0.8%	63.6%	1.5%	13.8%	1.0%	4.6%	100.0%

資料：令和 3 年北海道統計書

※地目別の面積は、各市町村において、1 月 1 日現在で土地課税台帳又は土地補充課税台帳に登録されている土地のうち、総評価地積と非課税地積を合計したものの。

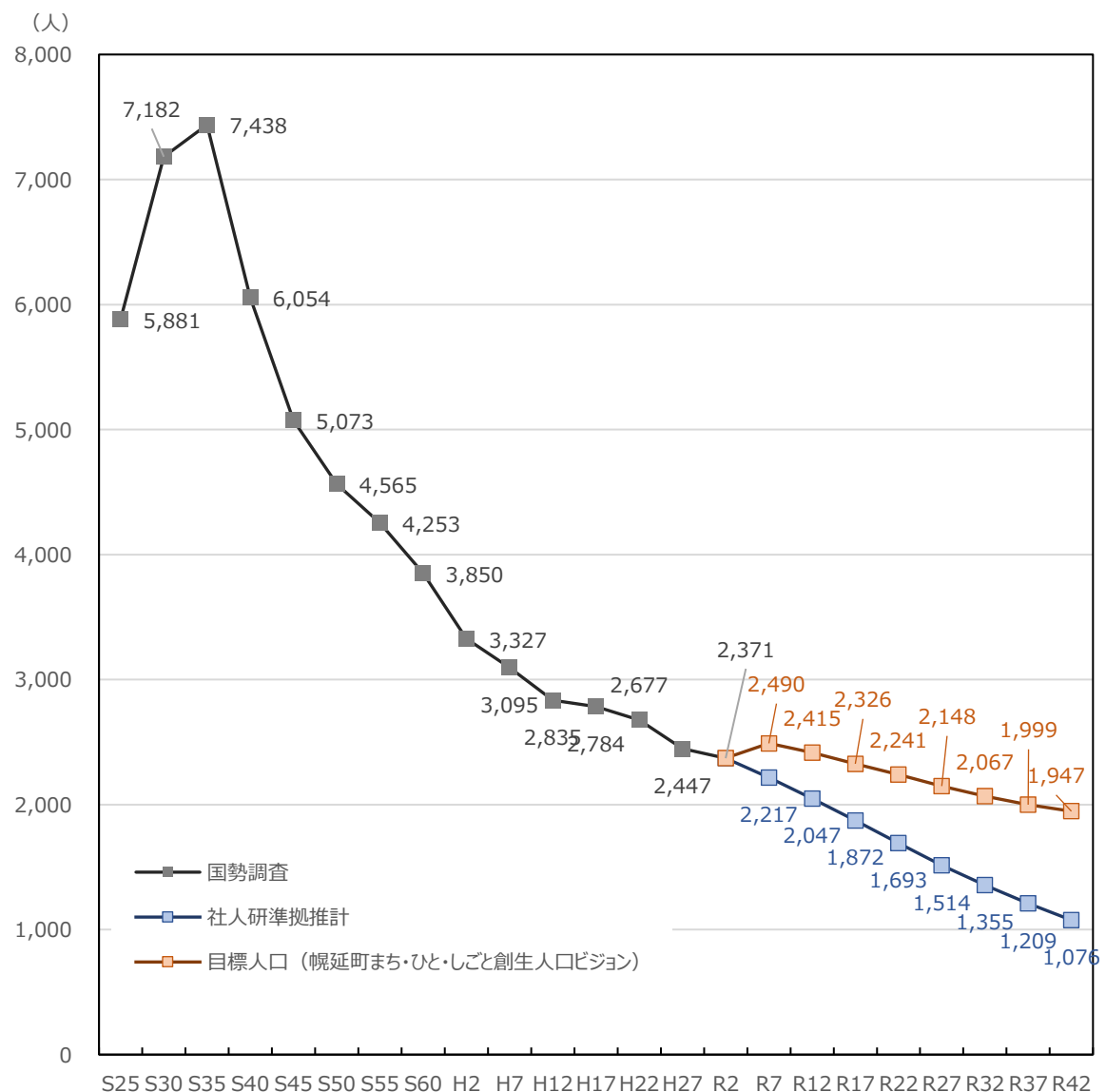
(2) 人口推移と将来推計

本町の人口は昭和 35 年の 7,438 人をピークに減少傾向に転じ、令和 2 年は 2,371 人となっています。

「幌延町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」における目標人口は、令和 12 年で 2,415 人、令和 22 年で 2,241 人と設定しています。

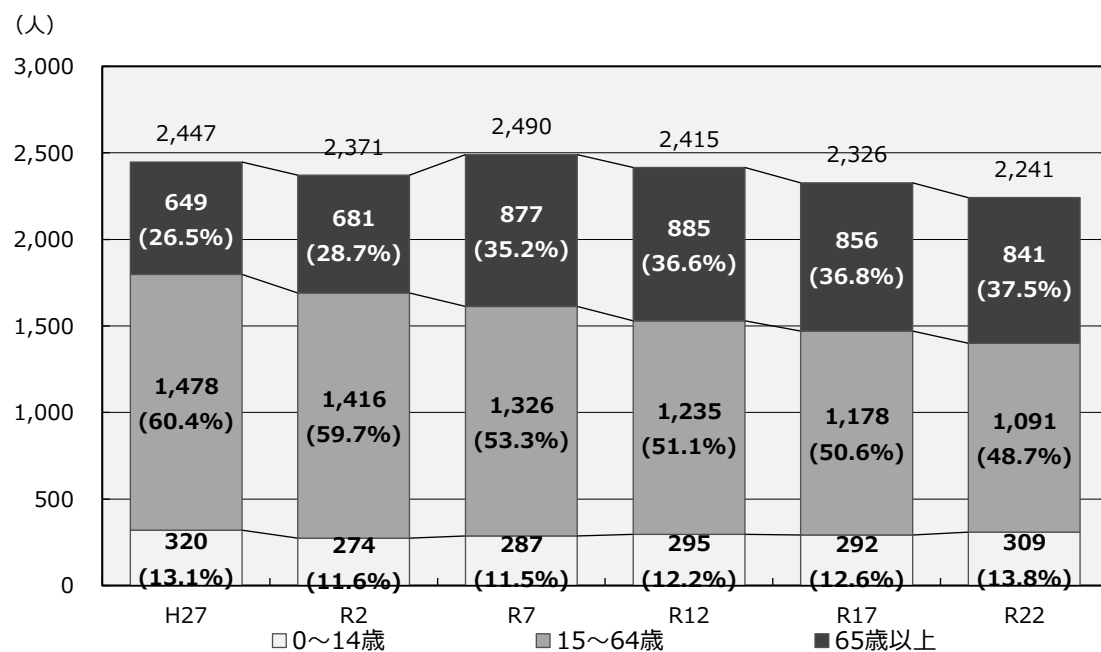
また、少子高齢化が進み令和 2 年以降は 65 歳以上が総人口の 30%を超える見込みです。一方で、将来年少人口（14 歳以下）は、11～14%程度を維持すると設定しています。

図 3-2 総人口の推移と今後の見通し



資料：各年国勢調査（総務省統計局）、幌延町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

図3-3 年齢3区分別将来人口の推移



資料：平成27年・令和2年国勢調査結果（総務省統計局）、幌延町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

(3) 上位・関連計画

①インフラ長寿命化基本計画（インフラ老朽化対策推進に関する関係省庁連絡会議）

策定年月	平成 25 年 11 月
策定目的	国民の安全・安心を確保し、中長期的な維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図るとともに、維持管理・更新に係る産業（メンテナンス産業）の競争力を確保するための方向性を示すものとして、国や地方公共団体、その他民間企業等が管理するあらゆるインフラを対象に、「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、国や地方公共団体等が一丸となってインフラの戦略的な維持管理・更新等を推進する。
目指すべき姿	(1) 安全で強靱なインフラシステムの構築 (2) 総合的・一体的なインフラマネジメントの実現 (3) メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化
基本的な考え方	<p>1. インフラ機能の確実かつ効率的な確保</p> <p>(1) 安全・安心の確保</p> <p>国民生活や社会経済活動の基盤であるインフラは、時代とともに変化する社会の要請を踏まえつつ、利用者や第三者の安全を確保した上で、必要な機能を確実に発揮し続けることが大前提であり、そのために必要な取組を確実に推進する。</p> <p>(2) 中長期的視点に立ったコスト管理</p> <p>厳しい財政状況下で必要なインフラの機能を維持していくためには、様々な工夫を凝らし、的確に維持管理・更新等を行うことで中長期的なトータルコストの縮減や予算の平準化を図る必要がある。これらを確実に実行することにより、インフラ投資の持続可能性を確保する。</p> <p>2. メンテナンス産業の育成</p> <p>一連のメンテナンスサイクルを継続し、発展させていくためには、インフラの安全性・信頼性の向上や、維持管理・更新業務の効率性の向上を図るための新技術の開発・導入が極めて重要である。このため、産学官の連携の下、研究開発を推進し、生み出される新技術を積極的に活用することで、メンテナンス産業に係る市場の創出・拡大を図る。これらを通じ、民間開発を活性化させ、我が国のメンテナンス技術を世界の最先端へと導くことで、世界をリードする輸出産業へと発展させる。</p> <p>3. 多様な施策・主体との連携</p> <p>インフラは、社会経済活動の基盤であり、インフラ相互はもとより、ソフト施策とも相まって、様々な機能を発揮する。このため、多様な施策や主体との連携により維持管理・更新等の効率化を図りつつ、その機能を最大限発揮させていく。</p>
インフラ長寿命化計画等の策定	<p>1. インフラ長寿命化計画</p> <p>必要なインフラの機能を維持していくためには、メンテナンスサイクルを構築するとともに、それらを支える技術、予算、体制、制度を一体的に整備することが必要である。このため、各インフラを管理・所管する者は、各施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況等を踏まえた上で、行動計画をできるだけ早期に策定する。</p> <p>2. 個別施設毎の長寿命化計画</p> <p>各インフラの管理者は、各施設の特性や維持管理・更新等に係る取組状況等を踏まえつつ、メンテナンスサイクルの核となる個別施設計画をできるだけ早期に策定し、これに基づき戦略的な維持管理・更新等を推進する。</p>

②文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）

策定年月	令和３年３月	
計画期間	令和３年度～令和７年度	
策定目的	<p>政府の「インフラ長寿命化基本計画」（平成 25 年 11 月）に基づき、文部科学省が所管する施設の長寿命化に向けた各設置者における取組を推進するため、文部科学省としての行動計画を平成 27 年 3 月に策定。</p> <p>今般、行動計画の計画期間が終了することから、これまでの取組のフォローアップや長寿命化に向けた政府全体の方針等を踏まえて、今後 5 年間に於ける更なる長寿命化対策の取組を推進するため、これまでの行動計画について、見直しを行い改定。</p>	
計画の範囲	対象施設：維持管理等に関する公財政支出があり、多数の国民を受け入れる施設（国公立学校施設、公立社会教育施設、施設運営型独立行政法人、庁舎等）	
目指すべき姿	<p>◆各設置者における「メンテナンスサイクル」の構築</p> <p>◆これまでの改築中心から長寿命化、事後保全から予防保全への転換を促し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減、予算の平準化</p>	
現状・課題	<p>◆第 2 次ベビーブームに対応して整備された学校施設等について、今後、急速な老朽化と整備需要の急増が予想</p> <p>◆児童生徒等の安全性の確保はもとより、個別最適な学びと協働的な学びを実現する教育環境の整備やバリアフリー環境の整備、防災機能の強化など、近年の整備需要も盛り込み、必要に応じて計画を更新していくことが課題</p> <p>◆個別施設計画の策定が完了していない設置者が存在することや策定した個別施設計画に記載すべき事項が盛り込まれていない計画もある</p> <p>◆人口減少や厳しい財政状況が続く中、学校の適正規模・適正配置や他施設との複合化の検討に加え、整備・運営に民間の資金等の活用を検討することも課題</p>	
前計画からの環境の変化	<p>◆予防保全による長寿命化、集約化等を通じた公的ストックの最適化、PPP／PFI などの官民連携手法の導入を図る</p> <p>◆すべての設置者において個別施設計画を策定し、限られた財源で戦略的に施設整備を進める</p>	
取り組みの方向性	メンテナンスサイクルの着実な実施	点検・診断や必要な修繕等の実施状況を把握、必要な予算の安定的な確保等
	予防保全型の老朽化対策への転換	国庫補助事業の制度拡充等
	個別施設計画の内容充実や適時の計画の見直し	個別施設計画の策定に関する実態調査の実施等
	公的ストックの最適化	個別施設計画の内容充実のための見直しや分野横断的実行計画の策定に資する事例集・ガイドラインの作成・周知等
	維持管理を含めた PPP／PFI などの官民連携手法の導入支援	包括的民間委託や維持管理に特化した PFI 等のガイドラインの作成・周知等
	体制の構築、情報基盤の整備及び活用	体制構築、施設の点検・診断結果等の情報の蓄積・共有の有効性の普及啓発等
	新技術の開発・導入	非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知等
フォローアップ	各設置者における取組の進捗状況の把握、課題の整理、解決に向けた取組の支援	

③第 6 次幌延町総合計画

策定年月	令和 3 年 3 月
計画期間	基本構想 令和 2 年度～令和 11 年度（10 年間） 基本計画 前期：令和 2 年度～令和 6 年度（5 年間）
策定趣旨	「第 5 次幌延町総合計画」及び「幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間が平成 31 年度に最終年度を迎えたことから、これまでの取組状況を検証・評価しつつ、時代潮流や地域社会環境の変化に対応した新たなまちづくりを計画的かつ総合的に推進するため、「第 6 次幌延町総合計画」及び「第 2 期幌延町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一体的に策定します。
基本構想	将来像：共に拓き、共に創り、未来へつなぐ！ ～笑顔と希望にみちあふれるまち ほろのべ～ 基本目標 1 持続可能なまちづくりを進める（地域づくり・行財政運営） 基本目標 2 活力と賑わいを創る（産業振興・雇用） 基本目標 3 健やかな暮らしを共に支える（保健・福祉・医療） 基本目標 4 生きる力と文化を育む（教育・文化） 基本目標 5 豊かな自然と安全を守る（環境保全・生活環境）
基本計画 (教育施設 整備関連 抜粋)	基本目標 4 生きる力と文化を育む 4-1 学校教育の充実 [主要施策] 2 教育環境の充実 ④学校施設の整備 学校施設は児童生徒等の学習・生活の場であるとともに、災害時は地域住民の避難場所としての重要な役割を担っているため、学校施設や設備の補修を進めます。 また、老朽化が進む各学校の改修などの方向性について、今後の学校のあり方とあわせて検討を進めます。 4-2 生涯学習の推進 [主要施策] 1 生涯学習の環境づくり ②生涯学習施設の整備 町民の多様な学習ニーズに対応するため、生涯学習センターを拠点として、だれもが利用しやすい環境づくりに努めます。 また、学習機会の拡充のため、学校施設や公共施設などの有効活用を図ります。 4-3 スポーツの振興 [主要施策] 1 生涯スポーツの推進 ③スポーツ施設の整備 町民が安心して、スポーツを楽しむことができるよう効果的な施設の管理運営に努めるとともに、老朽化している施設の補修や改修を行います。 4-4 芸術文化の振興 [主要施策] 2 芸術文化活動の促進 ②文化施設の整備 金田心象書道美術館や郷土資料館の展示替えや特別展の開催に努めます。郷土資料館の整備については、他町村と連携を図りつつ、適正な管理に努めます。

④幌延町公共施設等総合管理計画

策定年月	平成 29 年 3 月
計画期間	平成 29 年度～令和 8 年度の 10 年間
策定目的	本町の公共施設等の現状及び将来の見通しを把握し、どのように対処していくべきか基本方針を定める。
目標	建築系公共施設の延床面積の削減目標 令和 38 年（40 年後）までに施設延床面積の 10～30％を削減
基本方針	<p>7 章 公共施設等の管理に関する実施方針</p> <p>1 点検の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設は、日常点検と定期点検・臨時点検を実施し、点検履歴の記録は老朽化対策等に活かします。 <p>2 維持管理・修繕・更新等の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 維持管理及び修繕を計画的・効率的に行うことにより、維持管理費・修繕費を平準化し、建物に掛かるトータルコストを縮減します。 <p>3 安全確保の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 点検・診断等により危険性が認められた施設については、評価の内容に沿って安全確保の改修を実施します。 施設によっては、総合的な判断により改修せずに供用廃止を検討する場合があります。 <p>4 耐震化の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、耐震改修が完了していない老人福祉センターの耐震改修等の検討を行います。 <p>5 長寿命化の実施方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的かつ計画的な管理に基づいた予防保全によって、公共施設等の長期使用を図ります。個別に長寿命化計画等が策定されている場合はそれに準拠します。 建替周期は大規模改修を経て 60 年とし、更に使用が可能であれば長寿命化改修を行って 80 年まで長期使用します。 <p>6 統合や廃止の推進方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 7 つの項目において評価し、施設の統廃合及び供用廃止の判断材料とします。 住民サービスの水準低下を最小限にするため、種々の施策についてその可能性を検討します。
施設類型 ごとの 基本方針	<p>（7）学校施設</p> <p>学校施設については、幌延小学校、問寒別小中学校、幌延中学校の 3 校と学校給食センターがあります。これらの施設は、将来の児童・生徒数の推移や地域の実情を踏まえ、機能の充実を図るとともに、施設の機能が維持できるよう必要な補修を行います。</p> <p>（8）社会教育施設</p> <p>社会教育施設については、幌延町生涯学習センターや問寒別生涯学習センターのほか、金田心象書道美術館があります。これらの施設は、利用者のニーズにあった施設の管理運営に努めるとともに、施設の機能が維持できるよう必要な補修を行います。</p> <p>（9）社会体育施設</p> <p>社会体育施設については、総合体育館や総合スポーツ公園のほか、問寒別町民プールなどがあります。これらの施設は、利用者のニーズにあった施設の管理運営と施設機能を維持するために必要な補修を行うとともに、老朽化して利用の少ない地区体育館の統廃合を検討します。</p>

⑤幌延町第 7 次社会教育中期計画

計画期間	令和 2 年度～令和 7 年度の 6 年間
策定の意義	従来の計画を見直し、現状と課題を分析し、町民一人一人が「いつでも、どこでも、だれでも」学習活動に参加できる機会の充実を図り、人づくり、まちづくりの実現を目指し、生涯学習の基盤の確立のため本計画を策定する。
スローガン、基本政策	<p>スローガン：共に学び・共に育み・共に創る 郷土に根ざすひとづくり</p> <p>基本政策（6 年計画の柱）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幌延を知るための学びの場づくり 2 地域の営みに参画できる仕組みづくり 3 子どもたちの自立を促す環境づくり 4 次代に向けて挑戦し続ける風土づくり 5 学習活動の拠点づくり
基本政策（施設の長寿命化関連抜粋）	<p>政策 5 学習活動の拠点づくり</p> <p>目的：社会教育、社会体育施設の機能充実を図る。</p> <p>実施事務事業</p> <p>5－1 社会教育、社会体育施設を整備する 幌延町・問寒別生涯学習センター、金田心象書道美術館、郷土資料館、総合体育館、総合スポーツ公園、幌延・問寒別町民プール、東ヶ丘スキー場の利用や整備</p> <p>5－2 社会教育、社会体育施設の利用を促進する 子どもの読書活動推進計画の推進、ミニギャラリー展、書カフェ、心象館音楽の夕べ、軽体操運動、放課後子ども教室（おひさま子育て会）</p>

2 教育施設の状況

(1) 対象施設一覧

本計画の対象となる町内の教育施設は、14 施設であり、施設分類別では、学校施設は幌延小学校、幌延中学校及び問寒別小中学校の 3 校及び給食センター、社会教育施設は 4 施設、社会体育施設は 6 施設となっています。

表 3-2 対象施設の概要

分類	施設名	建物名	延床面積 (㎡)	建設年 度	児童 生徒数 (人)	学級 数
学校施設	幌延小学校	校舎 1	2,442	S56	108	9
		校舎 2	1,284	S57		
		校舎（配膳室）	44	H 2		
		屋体（渡り廊下含）	902	S57		
	幌延中学校	校舎	4,069	S60	51	6
		屋体（2F 渡り廊下含）	1,278	S60		
	問寒別小中学校	校舎 1（左側廊下含）	2,080	S55	15	4
		特別教室棟	340	S43		
		屋体 1（廊下入口含）	1,369	S63		
		屋体 2（廊下含）	494	S43		
	幌延町学校給食センター	学校給食センター（渡り廊下含）	559	H 2	—	—
社会教育施設	幌延町生涯学習センター	幌延町生涯学習センター	1,020	H23	—	—
	問寒別生涯学習センター	問寒別生涯学習センター	774	H27	—	—
	金田心象書道美術館	金田心象書道美術館	448	H2	—	—
	郷土資料展示室	郷土資料展示室	337	S62	—	—
社会体育施設	総合体育館	総合体育館	3,391	S54	—	—
	幌延町民プール	幌延町民プール	961	S62	—	—
	パークゴルフ場	管理棟	91	H 8	—	—
	野球場	本部棟	120	H 9	—	—
		ダックアウト	73	H 9	—	—
		スコアボード	31	H 9	—	—
	東ヶ丘スキー場	管理棟	113	S54※	—	—
	問寒別町民プール	問寒別町民プール	299	H14	—	—
合計			22,521		174	19

令和 3 年 4 月 1 日現在

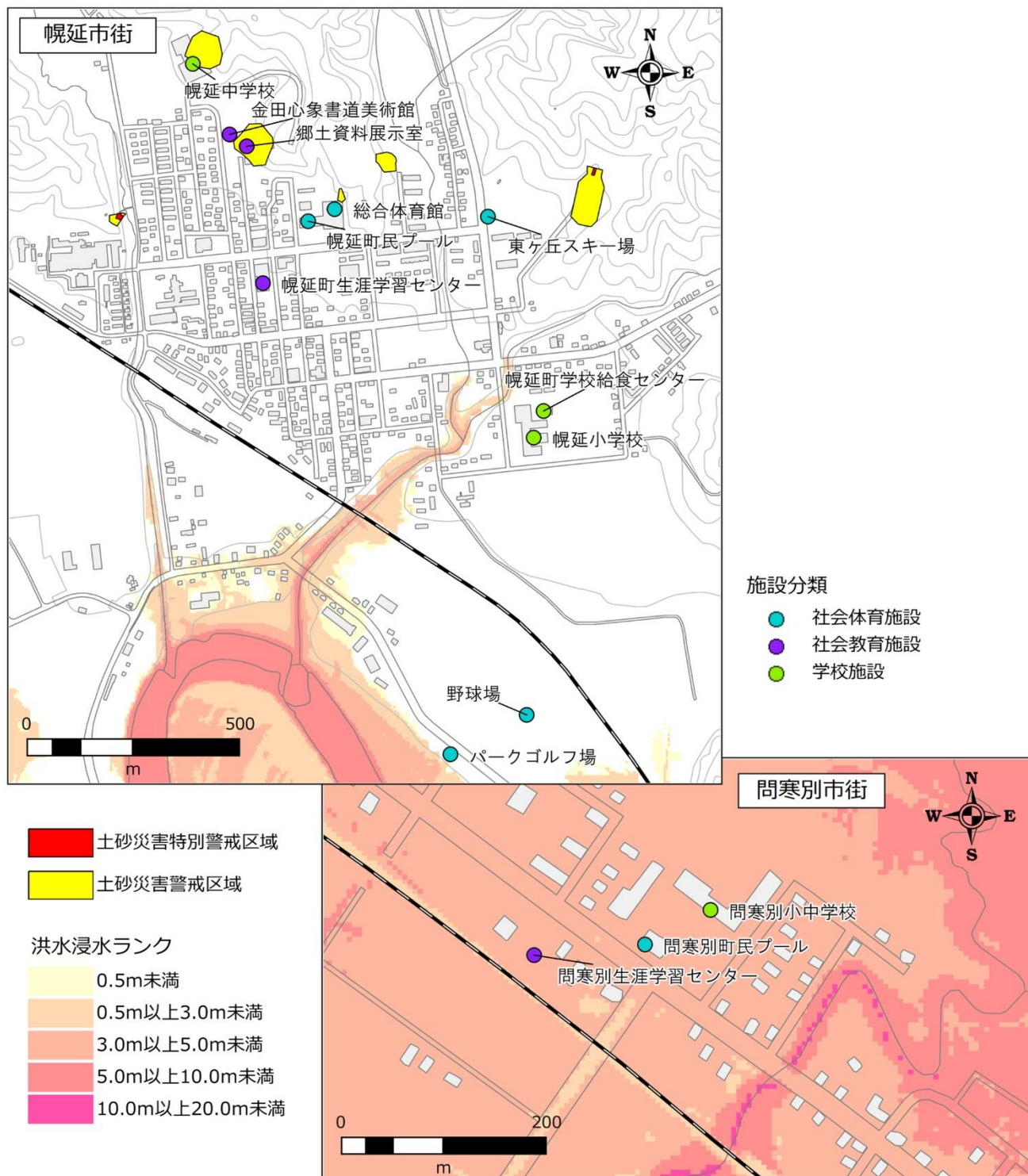
※注：東ヶ丘スキー場管理棟は、令和 2 年度に全面改修工事を実施

(2) 教育施設の配置状況

教育施設の立地状況をみると、幌延市街に 11 施設、問寒別市街に 3 施設、立地しています。

問寒別市街内の一部は想定最大規模（年超過確立 1/1,000 程度）の降雨の場合に浸水が想定されています。対象施設においては、問寒別小中学校、問寒別町民プール、問寒別生涯学習センターで 3～5 m 未満の浸水が想定されています。

図 3-4 対象施設位置図（浸水想定区域（想定最大規模）・土砂災害警戒区域）

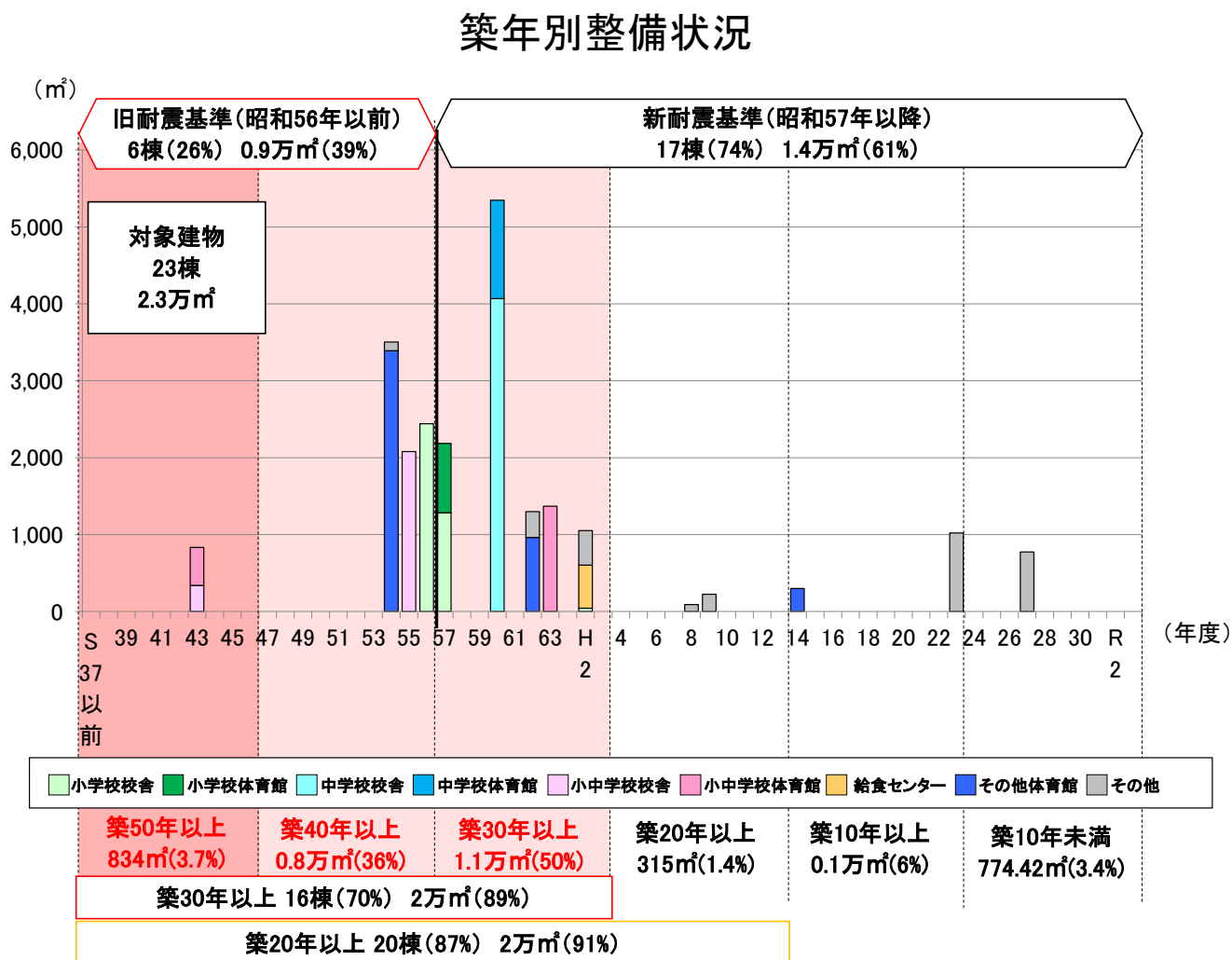


(3) 教育施設の築年別整備状況

教育施設の総延床面積は 22,521 m²であり、そのうち、幌延小学校（校舎1）、問寒別小中学校（校舎1、特別教室棟、屋体2）、総合体育館、東ヶ丘スキー場（管理棟）が築40年を経過しており、延床面積では8,861 m²（総延床面積の約39%）となっています。

また、上記建物は旧耐震基準で建てられたため、全て耐震改修を実施しています。

図 3-5 教育施設の築年別整備状況



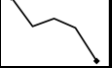

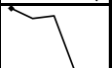




3 施設の利用状況

施設利用状況をみると、全体的に利用者が減少している状況です。

利用者数が増加傾向にあるのは、幌延中学校（学校開放）、問寒別町民プールなどです。

表 3-3 年度別施設利用者数※の推移

分類	施設名称	H28	H29	H30	R1	R2	合計	平均	傾向 (R2/H28)	
学校施設	幌延小学校	1,410	1,706	2,815	1,847	751	8,529	1,706		0.53
	幌延中学校	360	361	435	1,745	2,439	5,340	1,068		6.78
	問寒別小中学校	686	645	501	452	410	2,694	539		0.60
	幌延町学校給食センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—
社会教育施設	幌延町生涯学習センター	8,065	8,590	10,392	8,951	5,818	41,816	8,363		0.72
	問寒別生涯学習センター	6,810	5,528	5,874	5,460	3,996	27,668	5,534		0.59
	金田心象書道美術館	817	694	767	735	634	3,647	729		0.78
	郷土資料展示室	168	129	200	200	116	813	163		0.69
社会体育施設	総合体育館	17,934	17,098	17,074	14,357	13,141	79,604	15,921		0.73
	幌延町民プール	2,655	2,372	2,023	2,330	1,597	10,977	2,195		0.60
	パークゴルフ場	1,033	869	912	986 (4,425)	463 (3,297)	2,814	938		0.45
	野球場	1,393	1,823	1,691	1,406	625	6,938	1,388		0.45
	東ヶ丘スキー場（管理棟）					83	83	83		
	問寒別町民プール	313	236	244	372	441	1,606	321		1.41

※パークゴルフ場は、H31 から、個人利用人数を追加（下段）

※東ヶ丘スキー場（管理棟）は、R2 から供用開始

※幌延小学校、幌延中学校、問寒別小中学校は、学校開放分（屋外も含めて）

※H31、R2 は新型コロナウイルス感染症の影響により減少

4 児童生徒数の推移・将来推計

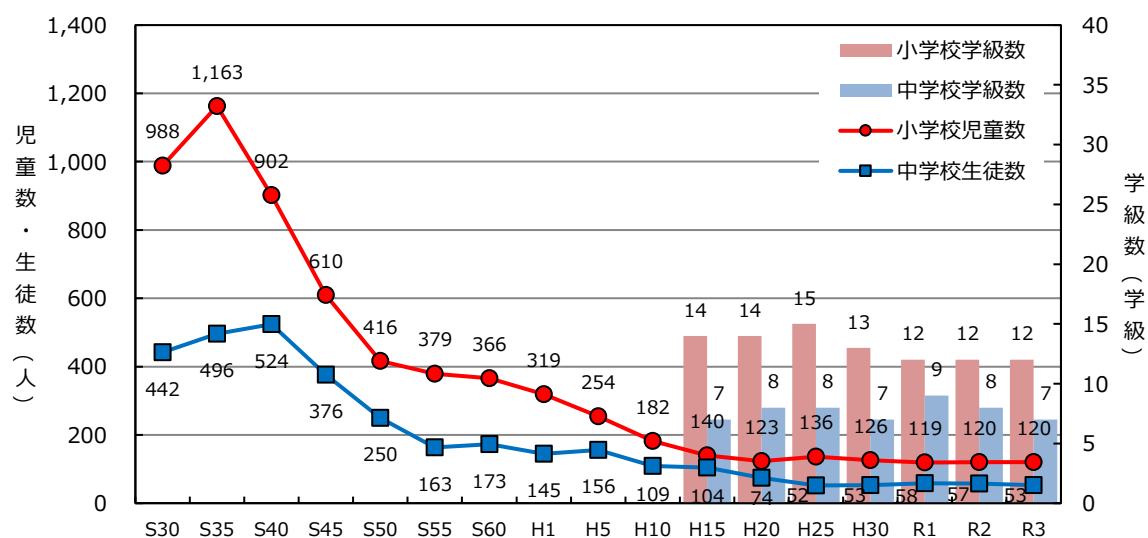
(1) 小中学校の児童数・生徒数等の推移と推計

小中学校の児童生徒数は、令和3年度現在で173人（小学校120人、中学校53人）です。

小学校の児童数は昭和35年をピークに減少してきており、現在は120人前後で推移、今後は100人台まで減少する見込みとなっています。

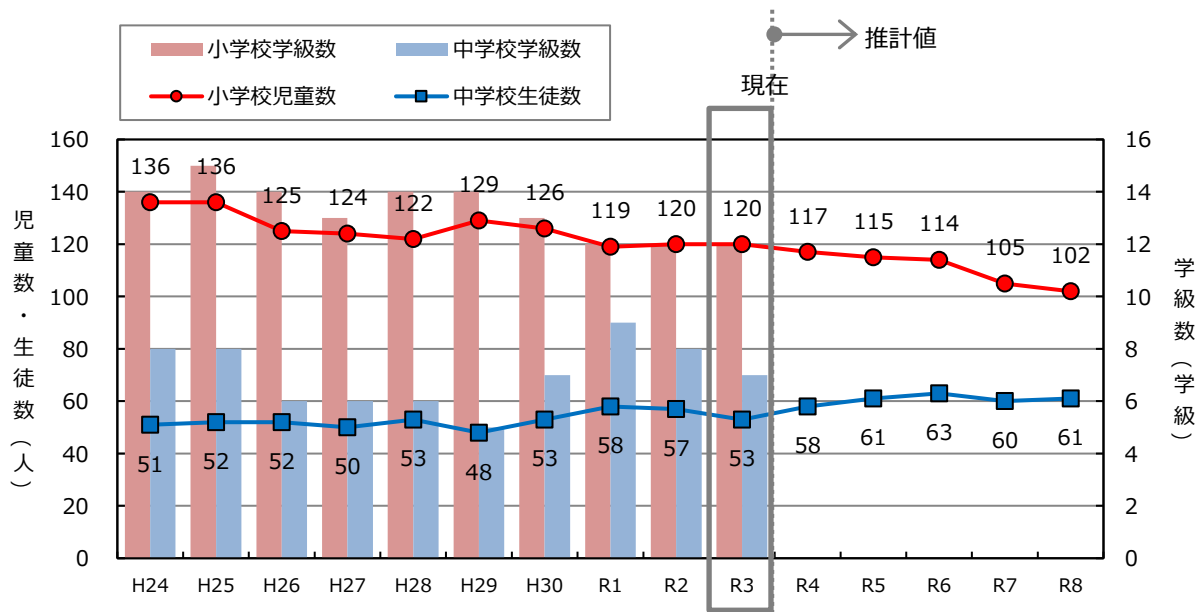
中学校の生徒数は、平成15年度までは100人を超えていましたが、現在は50人前後で推移しており、今後は60人台で推移する見込みです。

図 3-6 児童数・生徒数の推移



資料： 幌延町学校長寿命化計画、学校基本調査

図 3-7 児童数・生徒数の推移と将来推計



資料： 学校基本調査、推計値は町提供資料

5 施設関連経費の推移

直近5箇年（平成28～令和2年度）の施設関連経費の推移をみると、平成31年度、令和2年度は施設整備費が例年より高くなっています。

維持修繕費、光熱水費・委託費は概ね横ばいであり、5箇年平均では、維持修繕費が約1,500万円（11.8%）、光熱水費・委託費は約7,600万円（59.4%）となっています。

図 3-8 施設関連経費の割合（5箇年平均）

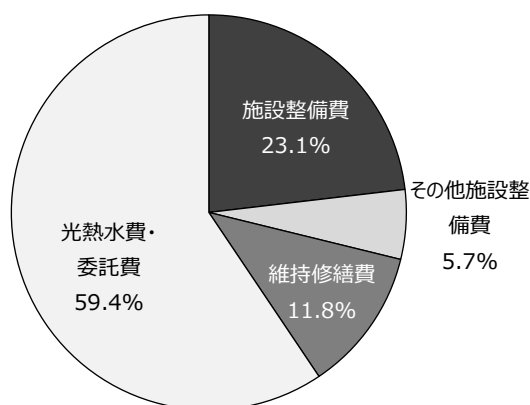


図 3-9 施設別施設関連経費の割合（5箇年合計）

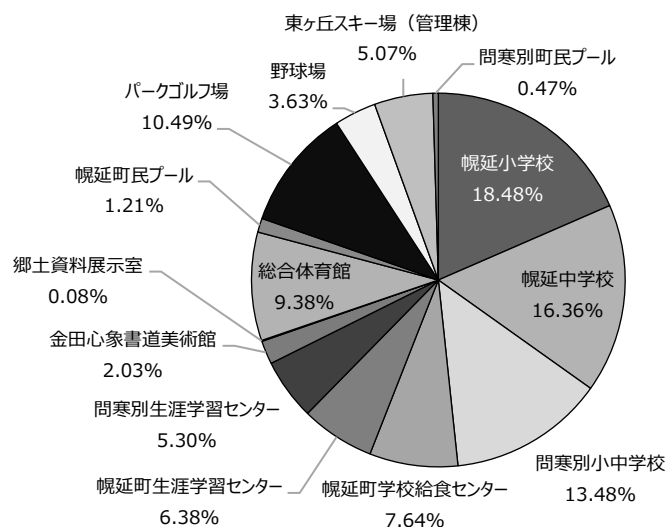


図 3-10 施設関連経費の推移

（単位：千円）

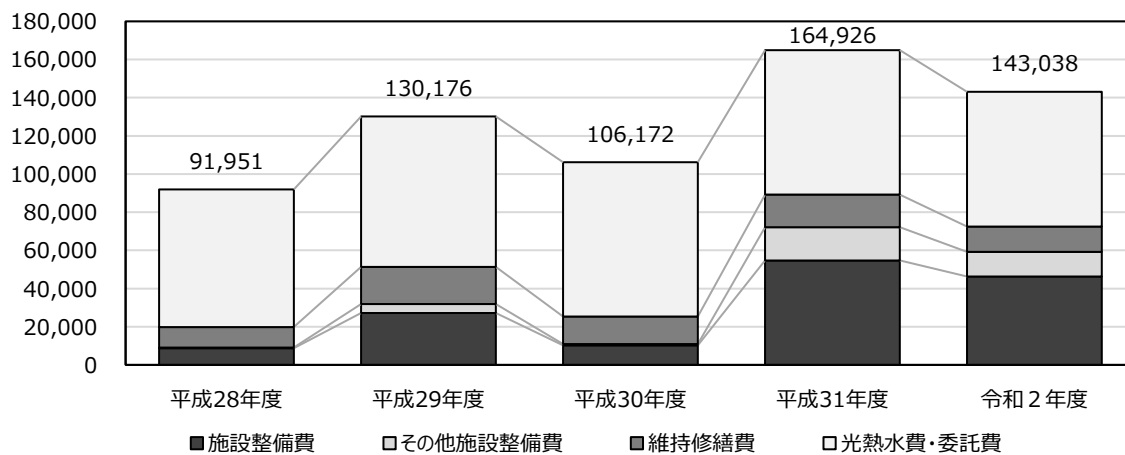


表 3-4 施設関連経費の推移

（単位：千円）

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R2 (2020)	合計	平均
施設整備費	8,770	27,216	10,186	54,739	46,324	147,235	29,447
その他施設整備費	371	4,746	785	17,424	12,847	36,173	7,235
維持修繕費	10,753	19,345	14,321	17,053	13,358	74,831	14,966
光熱水費・委託費	72,057	78,869	80,879	75,710	70,509	378,024	75,605
	91,951	130,176	106,172	164,926	143,038	636,263	127,253

※表中における単位未満の数値は四捨五入をしているため、合計と各項目の和が一致しない場合があります。

施設別にみると、学校施設（幌延小学校、幌延中学校、問寒別小中学校、学校給食センター）が全体の 56.0%と過半を占めています。

表 3-5 年度別施設関連経費の推移

(単位：千円)

施設名称	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度	合計
幌延小学校	19,460	38,090	19,128	21,448	19,451	117,577
幌延中学校	15,993	14,500	22,150	15,061	36,414	104,119
問寒別小中学校	5,808	7,619	7,050	32,737	32,538	85,753
幌延町学校給食センター	6,781	18,109	7,031	9,864	6,841	48,625
幌延町生涯学習センター	8,369	8,949	8,788	9,063	5,435	40,604
問寒別生涯学習センター	8,125	8,095	7,897	4,736	4,883	33,736
金田心象書道美術館	1,849	2,353	5,195	1,997	1,517	12,910
郷土資料展示室	36	92	0	14	377	518
総合体育館	9,548	11,976	10,613	11,269	16,266	59,671
幌延町民プール	1,428	1,579	1,587	1,595	1,509	7,698
パークゴルフ場	11,613	16,805	14,859	11,699	11,745	66,722
野球場	2,519	1,432	1,330	12,463	5,360	23,105
東ヶ丘スキー場（管理棟）	0	0	0	32,038	208	32,246
問寒別町民プール	422	576	543	944	495	2,980
合計	91,951	130,176	106,172	164,926	143,038	636,263

※表中における単位未満の数値は四捨五入をしているため、合計と各項目の和が一致しない場合があります。

表 3-6 施設別関連経費内訳（平成 28～令和 2 年度合計）

(単位：千円)

施設名称	施設整備費	その他 施設整備費	維持修繕費	光熱水費・ 委託費	合計	平均 (施設整備費除く)
幌延小学校	24,167	9,766	9,962	73,683	117,577	18,682
幌延中学校	31,077	1,116	9,702	62,224	104,119	14,608
問寒別小中学校	40,318	8,111	2,623	34,700	85,753	9,087
幌延町学校給食センター	8,192	5,246	5,511	29,676	48,625	8,087
幌延町生涯学習センター	0	1,814	10,230	28,560	40,604	8,121
問寒別生涯学習センター	1,491	0	3,098	29,146	33,736	6,449
金田心象書道美術館	0	0	5,821	7,090	12,910	2,582
郷土資料展示室	0	0	518	0	518	104
総合体育館	7,392	0	13,130	39,149	59,671	10,456
幌延町民プール	0	0	1,437	6,261	7,698	1,540
パークゴルフ場	2,786	0	8,586	55,350	66,722	15,984
野球場	0	10,120	2,785	10,200	23,105	4,621
東ヶ丘スキー場（管理棟）	31,812	0	111	322	32,246	87
問寒別町民プール	0	0	1,316	1,663	2,980	596
合計	147,235	36,173	74,831	378,024	636,263	101,002

※表中における単位未満の数値は四捨五入をしているため、合計と各項目の和が一致しない場合があります。

6 教育施設の老朽化状況の実態

(1) 構造躯体の健全性

対象施設のうち、昭和 56 年以前の旧耐震基準の建物は 6 棟（幌延小学校（校舎 1）、問寒別小中学校（校舎 1、特別教室棟、屋体 2）、総合体育館、東ヶ丘スキー場（管理棟））ありますが、全て耐震改修を実施済みです。

その他は、新耐震基準の施設であり、全棟が一定の安全性を有しています。

(2) 構造躯体以外の劣化状況

建物の屋根・屋上、外壁、内部仕上げ、電気設備・機械設備の劣化状況等について、調査および評価を行い、評価結果を踏まえた教育施設の課題を整理します。

① 評価方法・評価基準

屋根・屋上、外壁については目視調査により評価します。また、内部仕上げ、電気設備・機械設備については、部位の全面的な改修年からの経過年数等による劣化状況を踏まえ評価します。

屋根・屋上、外壁の評価基準	
A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全・機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全・機能上、不具合発生の兆し）
D	早急に対応する必要がある（安全・機能上、問題あり）

内部仕上げ、電気設備・機械設備の評価基準	
A	20 年未満
B	20～40 年
C	40 年以上
D	経過年数に係わらず著しい劣化事象がある場合

※建設年、もしくは部位の全面的な改修をした場合は、改修年からの経過年数

【健全度の算定】

健全度とは、各建物の部位について劣化状況を 4 段階で評価し、100 点満点で数値化した評価指標です。①部位の評価点と②部位のコスト配分を下表のように定め、③健全度を 100 点満点で評価します。

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

③健全度

総和（部位の評価点×部位のコスト配分）÷ 60

②健全度の読み取り方

5つの部位の劣化状況の評価を建物ごとに集計することで、現時点での当該建物の健全度を相対的に示す指標が算出されます。健全度は、優先的に改修する建物の順位付けを行う際に参考にすることができます。

健全度 40 点未満なら優先的に長寿命化改修等の対策を講じることが望ましいとされています。また、健全度の点数に関わらず、C、D評価の部位は修繕・改修が必要です。

③施設情報・評価結果一覧

対象 14 施設 23 棟のうち、健全度 40 点未満の建物はありませんでした。

幌延小学校、幌延中学校、総合体育館、幌延町民プールの外壁に「C」ランクがみられます。

また、幌延小学校、幌延中学校、郷土資料展示室の屋根・屋上に「C」ランクがみられます。

表 3-7 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

建物基礎情報								構造躯体の健全性			劣化状況評価						
通し 番号	施設名	建物名	構造	延床面積 (㎡)	建築年度		築年数	耐震安全性			長寿命化判定 試算上の区分	屋根・ 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点 満点)
					西暦	和暦		基準	診断	補強							
1	幌延小学校	校舎1	RC	2,442	1981	S56	40	旧	済	済	長寿命	C	C	B	B	C	58
2	幌延小学校	校舎2	RC	1,284	1982	S57	39	新			長寿命	C	C	B	B	C	58
3	幌延小学校	校舎(配膳室)	RC	44	1990	H2	31	新			長寿命	B	C	B	B	B	65
4	幌延小学校	屋体(渡り廊下含)	S	902	1982	S57	39	新			長寿命	C	C	B	B	B	62
5	幌延中学校	校舎	S	4,069	1985	S60	36	新			長寿命	C	C	B	C	C	53
6	幌延中学校	屋体(2F渡り廊下含)	S	1,278	1985	S60	36	新			長寿命	C	C	B	B	B	62
7	問寒別小中学校	校舎1(左側廊下含)	RC	2,080	1980	S55	41	旧	済	済	長寿命	A	A	C	C	C	62
8	問寒別小中学校	特別教室棟	RC	340	1968	S43	53	旧	済	済	長寿命	A	A	A	C	C	85
9	問寒別小中学校	屋体1(廊下入口含)	S	1,369	1988	S63	33	新			長寿命	A	A	B	B	B	84
10	問寒別小中学校	屋体2(廊下含)	S	494	1968	S43	53	旧	済	済	長寿命	B	A	A	C	C	83
11	幌延町学校給食センター	学校給食センター(渡り廊下含)	S	559	1990	H2	31	新			長寿命	B	B	B	B	B	75
12	幌延町生涯学習センター	幌延町生涯学習センター	S	1,020	2011	H23	10	新			長寿命	A	A	A	A	A	100
13	問寒別生涯学習センター	問寒別生涯学習センター	S	774	2015	H27	6	新			長寿命	A	A	A	A	A	100
14	金田心象書道美術館	金田心象書道美術館	S	448	1990	H2	31	新			長寿命	A	B	B	B	B	77
15	郷土資料展示室	郷土資料展示室	S	337	1987	S62	34	新			長寿命	C	B	B	B	B	72
16	総合体育館	総合体育館	SRC	3,391	1979	S54	42	旧	済	済	長寿命	B	C	B	C	C	56
17	幌延町民プール	幌延町民プール	S	961	1987	S62	34	新			長寿命	A	C	B	A	A	74
18	パークゴルフ場	管理棟	W	91	1996	H8	25	新			長寿命	A	A	A	B	B	94
19	野球場	本部棟	S	120	1997	H9	24	新			長寿命	B	B	B	B	B	75
20	野球場	ダックアウト	S	73	1997	H9	24	新			長寿命	B	B	B	B	B	75
21	野球場	スコアボード	S	31	1997	H9	24	新			長寿命	B	B	B	B	B	75
22	東ヶ丘スキー場	管理棟	W	113	1979	S54	42	旧	済	済	長寿命	A	A	A	A	A	100
23	問寒別町民プール	問寒別町民プール	S	299	2002	H14	19	新			長寿命	A	B	A	A	B	90

□ : 築 30 年以上

□ : 築 50 年以上

(3) 施設別評価結果

① 幌延小学校

劣化状況評価

1 幌延小学校

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
1	校舎1	RC	2,442	S56	40	58	C	C	B	B	C
2	校舎2	RC	1,284	S57	39	58	C	C	B	B	C
3	校舎（配膳室）	RC	44	H2	31	65	B	C	B	B	B
4	屋体（渡り廊下含）	S	902	S57	39	62	C	C	B	B	B

施設全景



【施設の主な劣化状況】

1 校舎

屋上
植物多い



2 校舎

屋上
シーリングの破損
多い



3 校舎

プレイルーム天井
・漏水痕有り
（現在はとまっ
ている）



4 校舎

外壁西面
・亀裂、鉄筋露
出



5 校舎

外壁西面
・膨らみ、亀裂



6 校舎

外壁南面
・基礎の亀裂、窓に
沿った亀裂



7 校舎

外壁南面
・基礎に大きな亀裂



8 屋体

外壁
・へこみ



②幌延中学校

劣化状況評価

2 幌延中学校

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
5	校舎	S	4,069	S60	36	53	C	C	B	C	C
6	屋体 (2F渡り廊下含)	S	1,278	S60	36	62	C	C	B	B	B

施設全景



【施設の主な劣化状況】

1

擁壁
・幅広の亀裂、エ
フロレッセンス



2

・職員玄関上部
鉄筋露出



3

校舎外壁
・亀裂、剥落多
数



4

校舎
・開口部の腐食



5

外壁
・亀裂、塗装の剥が
れ、欠落



6

屋体
・外壁亀裂、塗装
の剥がれ、欠落
・階段劣化、エフロ
レッセンス



7

校舎内部
・雨漏り跡



8

屋上
・全体に変質、劣
化



③問寒別小中学校

劣化状況評価

3 問寒別小中学校

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
7	校舎1（左側廊下含）	RC	2,080	S55	41	62	A	A	C	C	C
8	特別教室棟	RC	340	S43	53	85	A	A	A	C	C
9	屋体1（廊下入口含）	S	1,369	S63	33	84	A	A	B	B	B
10	屋体2（廊下含）	S	494	S43	53	83	B	A	A	C	C



【施設の主な劣化状況】

1 校舎外壁 ・塗装剥がれ		1 屋体2 ・亀裂、塗装膨れ、鉄部錆	
2 特別教室 ・亀裂、塗装剥がれ		2 校舎内部 ・亀裂	
3 ・渡り廊下接続部コーキング劣化、錆		3 屋体2内部 ・ドア枠欠損	
屋体1 ・数か所の膨らみ		4 校舎屋根 ・概ね良好	

④幌延町学校給食センター

劣化状況評価

4 学校給食センター

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
11	学校給食センター（渡り廊下舎）	S	559	H2	31	75	B	B	B	B	B

施設全景



【施設の主な劣化状況】

1 屋上		5 裏口 ・階段の網目状の亀裂	
2 外壁 ・膨らみ		6 外壁 ・基礎の網目状の亀裂	
3 外壁 ・基礎部分の亀裂		7 外壁 ・膨らみ	
4 外壁 ・基礎部分の欠損		8 内部 ・壁の亀裂	

⑤幌延町生涯学習センター

劣化状況評価

5 幌延町生涯学習センター

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
12	幌延町生涯学習センター	S	1,020	H23	10	100	A	A	A	A	A

施設全景



【施設の主な劣化状況】

1 ・スロープ横の剥離		5 ドアの錆	
2 外壁 ・欠落		6 屋上 ・広範囲に変質、亀裂、雑草	
3 外壁 ・基礎の亀裂		7 屋上 ・トップライト基礎鉄筋の塗装剥がれ	
4 ・駐輪場外壁の亀裂		8 内部 ・概ね良好	

⑥問寒別生涯学習センター

劣化状況評価

6 問寒別生涯学習センター

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
13	問寒別生涯学習センター	S	774	H27	6	100	A	A	A	A	A

施設全景



【施設の主な劣化状況】

1

・スロープ横の地盤沈下



5

・シーリング材の亀裂、カビ



2

・開口部の錆



6

受水槽
・地盤歪み



3

基礎
・亀裂



7

屋上
・概ね良好



4

基礎
・亀裂、エフロレンス



内部
・概ね良好



⑦金田心象書道美術館

劣化状況評価

7 金田心象書道美術館

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
14	金田心象書道美術館	S	448	H2	31	77	A	B	B	B	B



【施設の主な劣化状況】

1

・エントランス階
段タイル欠損



2

・エントランス床
亀裂



3

・エントランス軒
天塗装の剥がれ



4

外壁
・鉄部錆多数



5

基礎
・亀裂、鉄部錆



6

内部
・大きな隙間



7

内部
・床の亀裂



8

屋根
・概ね良好



⑧郷土資料館展示室

劣化状況評価

8 郷土資料展示室

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
15	郷土資料展示室	S	337	S62	34	72	C	B	B	B	B

施設全景



【施設の主な劣化状況】

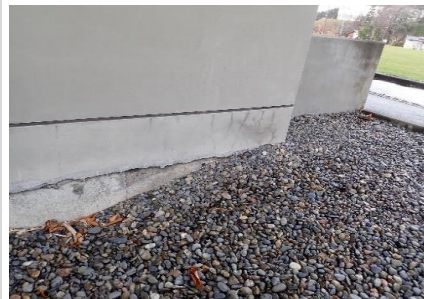
1

・鉄筋露出



5

・地盤沈下



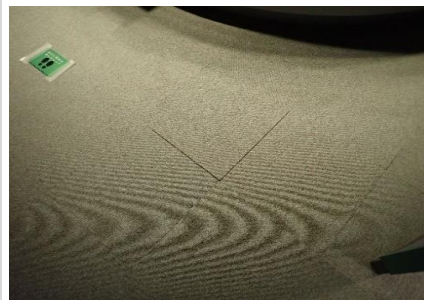
2

・非常口階段の
網目状の亀裂、
ドアの錆



6

内部
・タイルカーペットの
剥がれ



3

基礎
・亀裂



7

・雨漏り跡多数



4

・軒天に穴



8

・雨漏り跡多数



⑨総合体育館

劣化状況評価

9 総合体育館

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
16	総合体育館	SRC	3,391	S54	42	56	B	C	B	C	C

施設全景



【施設の主な劣化状況】

1 屋上 ・植物多い		5 外壁南面 ・亀裂	
2 屋上 ・保護層の亀裂 多い		6 外壁 ・基礎部分の網目 状の亀裂	
3 入口 ・階段の欠損、エ フロレッセンス		7 外壁 基礎部分の亀裂	
4 外壁 ・塗装の剥がれ、 亀裂		8 外壁 ・欠損、亀裂、鉄筋 の露出	

⑩ 幌延町民プール

劣化状況評価

10 幌延町民プール

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
17	幌延町民プール	S	961	S62	34	74	A	C	B	A	A

施設全景



【施設の主な劣化状況】

<p>1 屋根 ・へこみ</p>		<p>5 外壁 ・亀裂、エフロレッセンス</p>	
<p>2 外壁 ・基礎部分の亀裂</p>		<p>6 外壁 ・基礎分の亀裂</p>	
<p>3 地盤の沈下</p>		<p>7 外壁 ・へこみ</p>	
<p>4 外階段 ・手すりの錆、階段の亀裂</p>		<p>8 外壁 ・欠損</p>	

⑪パークゴルフ場

劣化状況評価

11 パークゴルフ場

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
18	管理棟	W	91	H8	25	94	A	A	A	B	B



【施設の主な劣化状況】

<p>1</p> <p>・一部シャッターのへこみ</p>		<p>5</p> <p>・スロープ側アスファルトの剥がれ、亀裂</p>	
<p>2</p> <p>・シャッター枠の錆</p>		<p>6</p> <p>・エントランス階段のエフロレッセンス、浮き</p>	
<p>3</p> <p>・スロープ側の地盤沈下</p>		<p>7</p> <p>屋根 ・概ね良好</p>	
<p>4</p> <p>・建物周囲の地盤沈下</p>		<p>8</p> <p>内部 ・概ね良好</p>	

⑫野球場

劣化状況評価

12 野球場

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
19	本部棟	S	120	H9	24	75	B	B	B	B	B
20	ダックアウト	S	73	H9	24	75	B	B	B	B	B
21	スコアボード	S	31	H9	24	75	B	B	B	B	B



【施設の主な劣化状況】

1

本部棟北面
・地盤沈下



2

本部棟北面
・地盤沈下



3

本部棟東面
・基礎の亀裂、
塗装の剥がれ



4

本部棟南面
・亀裂、塗装の
剥がれ



5

本部棟屋上
・ルーフトレンの錆



6

本部棟内部
・広範囲に雨漏り
跡



7

ダックアウト
・亀裂、錆、漏水痕



8

スコアボード
・錆、塗装の剥がれ



⑬東ヶ丘スキー場（管理棟）

劣化状況評価

13 東ヶ丘スキー場（管理棟）

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
22	管理棟	W	113	S54	42	100	A	A	A	A	A



【施設の主な劣化状況】

1

外壁東面
・概ね良好



5

内部
・概ね良好



2

外壁西面
・概ね良好



6

内部
・概ね良好



3

外壁南面
・概ね良好



7

内部
・概ね良好



4

外壁北面
・概ね良好



8

内部
・概ね良好



⑭問寒別町民プール

劣化状況評価









14 問寒別町民プール

施設全景

	建物名	構造	延面積 (㎡)	建設年度		健全 度	劣化状況				
				和暦	築年 数		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
23	問寒別町民プール	S	299	H14	19	90	A	B	A	A	B



【施設の主な劣化状況】

<p>1</p> <p>基礎</p> <p>・網目状の亀裂、エフロレッセンス</p>		<p>5</p> <p>内部</p> <p>・機械の錆</p>	
<p>2</p> <p>外壁</p> <p>・ビス外れ</p>		<p>6</p> <p>内部</p> <p>・水道接続部の錆多数</p>	
<p>3</p> <p>外壁</p> <p>・塩ビ板の劣化、錆</p>		<p>7</p> <p>内部</p> <p>・非常口ドア錆</p>	
<p>4</p> <p>外階段</p> <p>・亀裂、欠落、エフロレッセンス</p>		<p>8</p> <p>内部</p> <p>・基礎亀裂</p>	

第4章 教育施設整備の基本的な方針等

1 教育施設全体の基本方針

上位計画である幌延町公共施設等総合管理計画の方針を基に、教育施設長寿命化の基本的な方針を定めることとし、以下に示します。

■学校施設

学校施設については、幌延小学校、問寒別小中学校、幌延中学校の3校と学校給食センターがあります。これらの施設は、将来の児童・生徒数の推移や地域の実情を踏まえ、機能の充実を図るとともに、施設の機能が維持できるよう必要な補修を行います。

■社会教育施設

社会教育施設については、幌延町生涯学習センターや問寒別生涯学習センターのほか、金田心象書道美術館があります。これらの施設は、利用者のニーズにあった施設の管理運営に努めるとともに、施設の機能が維持できるよう必要な補修を行います。

■社会体育施設

社会体育施設については、総合体育館や総合スポーツ公園のほか、問寒別町民プールなどがあります。これらの施設は、利用者のニーズにあった施設の管理運営と施設機能を維持するために必要な補修を行うとともに、老朽化して利用の少ない地区体育館の統廃合を検討します。

2 学校施設の基本方針

(1) 学校施設の目指すべき姿に沿った基本方針

学校施設については、上記に加え「第2章 2 学校施設の目指すべき姿」を踏まえた基本的な方針を定めることとします。

a.安全性

小中学校は災害などが起こった際の避難所となるため、構造躯体や建物本体（外壁、屋上・屋根、内部仕上げ等）、各種設備などの長寿命化や老朽改修を行う必要があります。そのため、計画的な長寿命化改修や老朽改修、エコ改修などを行い安全性の確保を図るとともに防災機能の向上を図り、安全・安心な学校施設を目指します。

【主な内容】

- ・建物の劣化（老朽化）対策：長寿命化改修、老朽改修、エコ改修
- ・非構造部材の耐震対策等
- ・防災防犯対策：防災拠点としての防災備蓄の整備、自家発電設備の整備、防犯カメラや外灯の設置、避難所としての防災機能強化 等

b.快適性

学習能率の向上を図るための快適な学習環境（ICT 教育環境整備等）を整備するとともに、児童・生徒や地域の人々が愛着を持ち、誰もが訪れやすいようにバリアフリーにも配慮された空間を目指します。

また、教職員にも配慮した空間とし、事務負担軽減など校務の情報化に必要な ICT 環境を整備します。

【主な内容】

ICT 教育環境の整備、バリアフリー対応、給排水設備・衛生設備・空調設備等の設備更新、改修 等

c.学習活動への適応性

子どもたちの主体性を養う空間の充実を図るための環境を整備するとともに、効果的・効率的な学習施設としての ICT 環境の整備を図ります。

【主な内容】

ICT 教育環境の整備、課外学習や出前授業等に対応できる教育環境の整備 等

d.環境への適応性

地球環境問題への関心を高めるため、エコ改修によるエコスクール化など環境を考慮した学校施設等の整備を図ります。

【主な内容】

学校施設の Z E B 化（高断熱化、LED 照明、高効率空調、太陽光発電等）、木材利用の促進（木造、内装木質化）、室内環境の改善（音・温熱・室内空気環境など）、エコ改修による LED 照明の導入、地球環境（温暖化）・周辺環境（景観・日照など）への配慮 等

e.地域の拠点化

地域の拠点として、安全で安心な学校施設で地域に開かれた学校とするための環境整備を図ります。

【主な内容】

他施設との複合化・共用化・集約化、校庭の開放、図書室の開放、教室等開放、体育館開放、地域団体との連携 等

(2) 学校施設の整備・配置方針

町内の現状は、過疎化や少子高齢化の進行により、小中学校の児童生徒数の減少が徐々に進んでいます。

町の中心である幌延地区では、小・中学校が各1校の配置で、小学校の普通学級は6学級、中学校の普通学級は3学級の規模であるほか、第二集落の間寒別地区は、小中併置校で小学校の普通学級が第1・第2学年及び第4・第5学年の複式学級で2学級、中学校は第2・第3学年の複式で1学級のみとなっています。

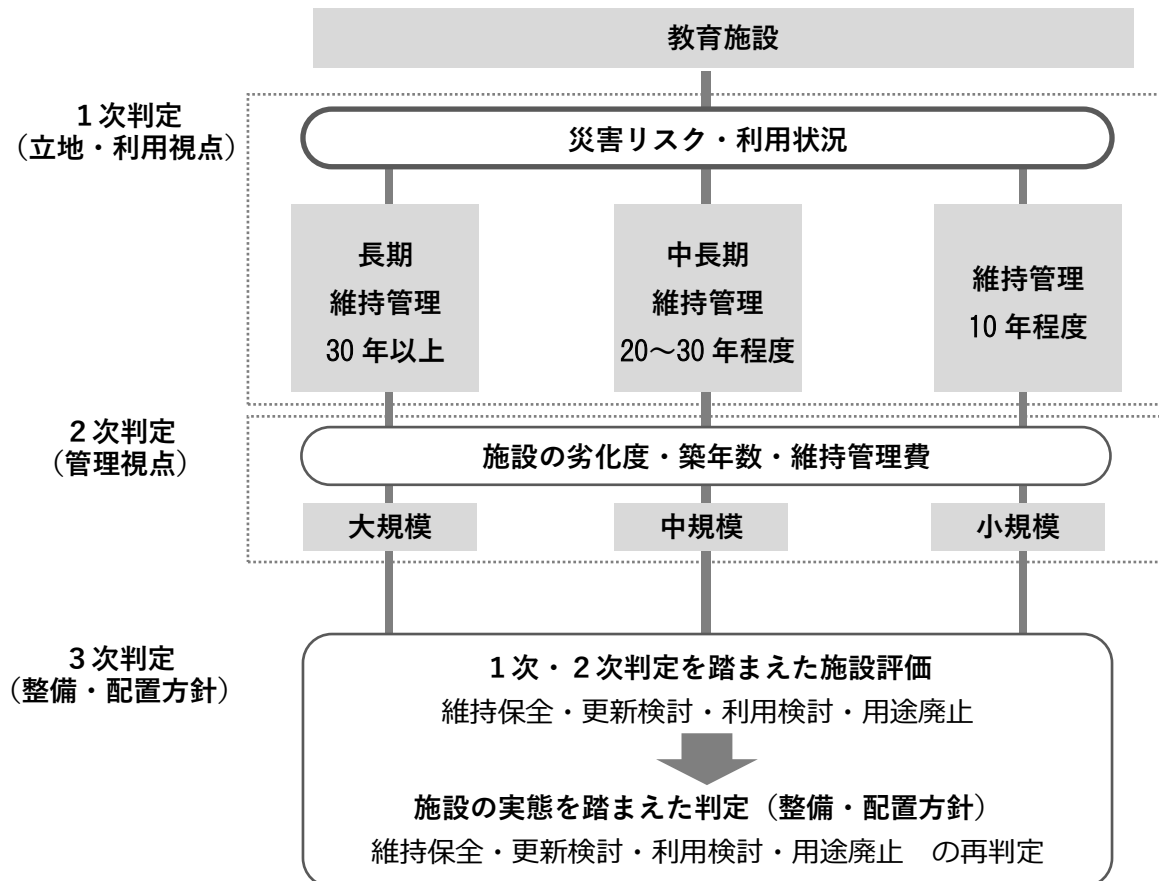
学校の規模は小規模ですが、いずれも地域文化の活動拠点や防災関連機能など各地域で重要な役割を果たしています。

学校の配置については、地理的条件や各地域における役割等を踏まえ、当面既存の施設を機能させる方針ではありますが、今後の児童生徒数の推移を想定した上で、小中一貫制度の導入や学校の統合等の再編を検討していくことが必要です。

3 社会教育施設・社会体育施設の基本方針

社会教育施設・社会体育施設の今後の整備・配置方針は、以下のフロー図に沿って1次～3次判定を行い選定します。

図 4-1 整備・配置方針選定フロー



(1) 1次判定（立地・利用視点）

1次判定では、施設が立地している場所の災害リスク及び利用状況をそれぞれ点数化し、点数によって、「長期維持管理」（30年以上活用を図る施設）、「中長期維持管理」（20～30年程度の活用を図る施設）、「維持管理」（概ね10年間は施設を維持する施設）の3つに判定します。

①評価項目・指標

a. 災害リスク

施設の立地場所の浸水想定状況、土砂災害の危険度に応じて、0点（リスク低）～2点（リスク高）まで評価します。

浸水想定	点数
0.5m未満	0点
3.0m未満	1点
3.0m以上	2点

土砂災害警戒区域	点数
区域外	0点
土砂災害警戒区域	1点
土砂災害特別警戒区域	2点

b. 利用状況

平成28年度と令和2年度の年間利用数（利用者数等）の増減率に応じて、0点（利用増）～2点（利用減）まで評価します。

R2/H28 利用数増減率	点数
100%以上	0点
90～100%未満	1点
80～90%未満	2点
80%未満	3点

②判定結果

上記の2指標の評価結果の合計点数から、「長期維持管理」（30年以上活用を図る施設）、「中長期維持管理」（20～30年程度の活用を図る施設）、「維持管理」（概ね10年間は施設を維持する施設）の3つに判定します。

1次判定結果	点数
長期維持管理	0～1点
中長期維持管理	2～3点
維持管理	4～5点

表 4-1 1次判定結果

	施設類型	施設名（建物名）	延床面積 (㎡)	建設 年度	構造	1次判定（同一施設は同一値）										点数 合計	判定結果
						立地・利用視点								利用 状況 点数	点数 合計		
						浸水想定	浸水 リスク 点数	土砂災害 警戒区域	土砂 災害 リスク 点数	災害 リスク 点数	H28 利用状況 (人)	R2 利用状況 (人)	R2/H28 増減率				
1	社会教育施設	幌延町生涯学習センター	1,020.40	H23	S	0.5m未満	0	区域外	0	0	8,065	5,818	72.1%	3	3	中長期維持管理	
2	社会教育施設	問寒別生涯学習センター	774.42	H27	S	3.0m以上	2	区域外	0	2	6,810	3,996	58.7%	3	5	維持管理	
3	社会教育施設	金田心象書道美術館	448.14	H2	S	0.5m未満	0	区域外	0	0	817	634	77.6%	3	3	中長期維持管理	
4	社会教育施設	郷土資料展示室	336.63	S62	S	0.5m未満	0	警戒区域	1	1	168	116	69.0%	3	4	維持管理	
5	社会体育施設	総合体育館	3,391.17	S54	SRC	0.5m未満	0	区域外	0	0	17,934	13,141	73.3%	3	3	中長期維持管理	
6	社会体育施設	幌延町民プール	961.16	S62	S	0.5m未満	0	区域外	0	0	2,655	1,597	60.2%	3	3	中長期維持管理	
7	社会体育施設	パークゴルフ場（管理棟）	91.13	H8	W	0.5m未満	0	区域外	0	0	1,033	463	44.8%	3	3	中長期維持管理	
8	社会体育施設	野球場（本部棟）	120.00	H9	S	0.5m未満	0	区域外	0	0	1,393	625	44.9%	3	3	中長期維持管理	
9	社会体育施設	野球場（ダッグアウト）	72.50	H9	S	0.5m未満	0	区域外	0	0	1,393	625	44.9%	3	3	中長期維持管理	
10	社会体育施設	野球場（スコアボード）	31.32	H9	S	0.5m未満	0	区域外	0	0	1,393	625	44.9%	3	3	中長期維持管理	
11	社会体育施設	東ヶ丘スキー場（管理棟）	113.40	S54	W	0.5m未満	0	区域外	0	0	—	83	100.0%	0	0	長期維持管理	
12	社会体育施設	問寒別町民プール	299.40	H14	S	3.0m以上	2	区域外	0	2	313	441	140.9%	0	2	中長期維持管理	

(2) 2次判定（管理視点）

2次判定では、施設の劣化度や築年数、維持管理費をそれぞれ点数化し、点数によって、施設の改修規模の必要性を「小規模」、「中規模」、「大規模」の3つに判定します。

①評価項目・指標

a. 劣化度

施設の劣化状況等の評価結果（健全度）に応じて、0点（劣化少）～3点（劣化多）まで評価します。

劣化度（健全度）	点数
90 以上	0 点
70～90	1 点
60～70	2 点
60 未満	3 点

b. 築年数

令和3年度現在の築年数に応じて、0点（新しい）～2点（古い）まで評価します。

築年数	点数
30 年未満	0 点
30～50 年未満	1 点
50 年以上	2 点

c. 維持管理費

平成28年度から令和2年度まで直近5箇年の㎡あたり平均維持管理費※に応じて、0点（費用少）～2点（費用多）までの評価をします。

維持管理費	点数
10 千円未満	0 点
10～100 千円未満	1 点
100 千円以上	2 点

※施設関連経費のうち、その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費・委託費の年間合計額の5箇年平均

②判定結果

上記の3指標の評価結果の合計点数から、「小規模」（小規模な修繕等に対応可能な施設）、「中規模」（中規模な改修が必要とされる施設）、「大規模」（比較的大規模な改修が必要とされる施設）の3つに判定します。

2次判定結果	点数
小規模	0～1 点
中規模	2～4 点
大規模	5～7 点

表 4-2 2次判定結果

	施設類型	施設名（建物名）	延床面積 (㎡)	建設 年度	構造	2 次判定（平均維持管理費は同一施設は同一値）							判定結果
						管理視点						点数 合計	
						健全度	劣化度 点数	築年数	築年数 点数	㎡あたり 平均維持 管理費※ (千円)	維持 管理費 点数		
1	社会教育施設	幌延町生涯学習センター	1,020.40	H23	S	100	0	10	0	8.0	0	0	小規模
2	社会教育施設	問寒別生涯学習センター	774.42	H27	S	100	0	6	0	8.3	0	0	小規模
3	社会教育施設	金田心象書道美術館	448.14	H2	S	77	1	31	1	5.8	0	2	中規模
4	社会教育施設	郷土資料展示室	336.63	S62	S	72	1	34	1	0.3	0	2	中規模
5	社会体育施設	総合体育館	3,391.17	S54	SRC	56	3	42	1	3.1	0	4	中規模
6	社会体育施設	幌延町民プール	961.16	S62	S	74	1	34	1	1.6	0	2	中規模
7	社会体育施設	パークゴルフ場（管理棟）	91.13	H8	W	94	0	25	0	140.3	2	2	中規模
8	社会体育施設	野球場（本部棟）	120.00	H9	S	75	1	24	0	38.5	1	2	中規模
9	社会体育施設	野球場（ダッグアウト）	72.50	H9	S	75	1	24	0	63.7	1	2	中規模
10	社会体育施設	野球場（スコアボード）	31.32	H9	S	75	1	24	0	147.5	2	3	中規模
11	社会体育施設	東ヶ丘スキー場（管理棟）	113.40	S54	W	100	0	42	1	0.8	0	1	小規模
12	社会体育施設	問寒別町民プール	299.40	H14	S	90	1	19	0	1.7	0	1	小規模

※その他施設整備費、維持修繕費、光熱水費・委託費の合計額の直近5年（H28-R2）平均

（3）3次判定（整備・活用方針）

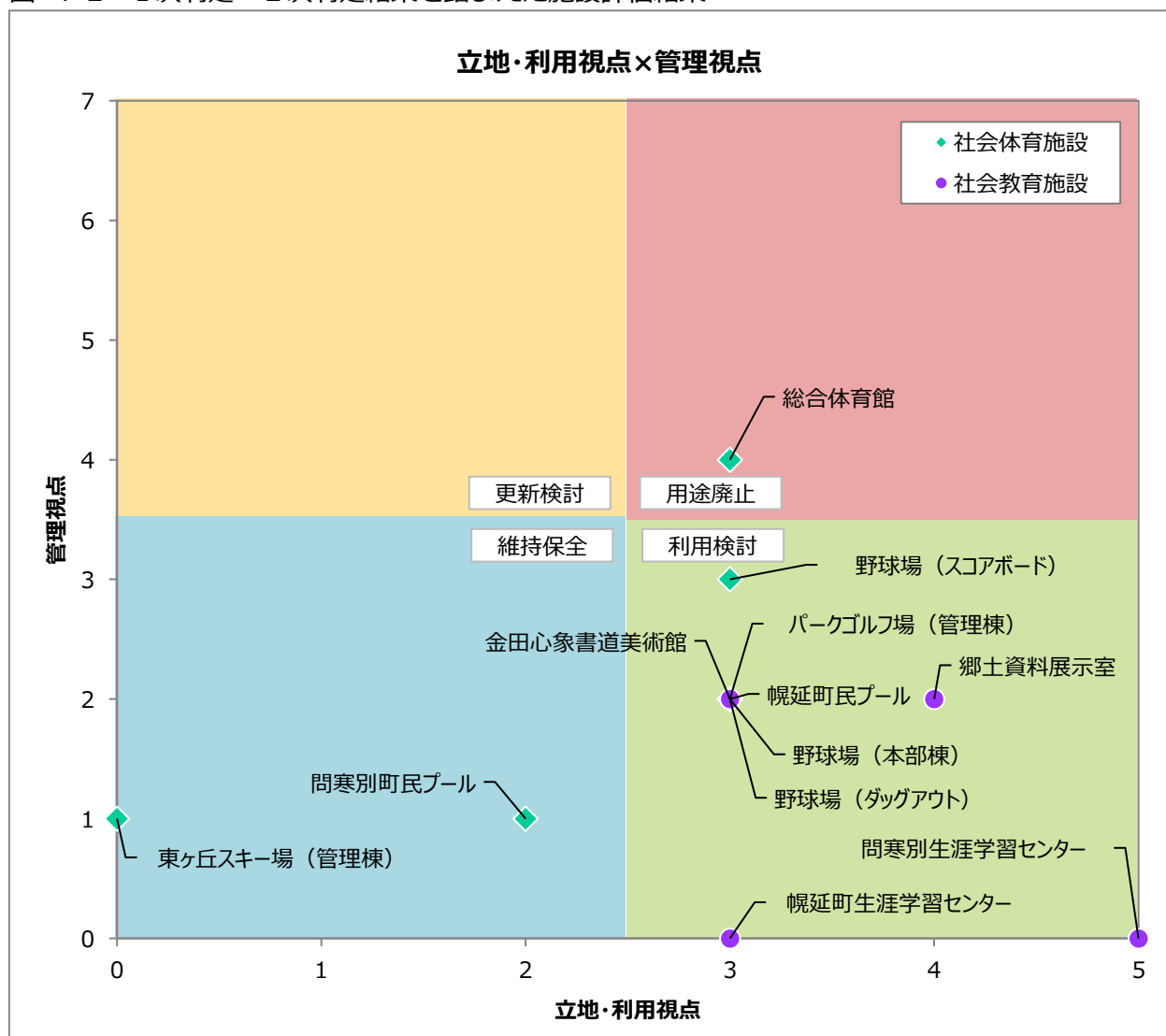
3次判定では、1次判定・2次判定結果を踏まえた、以下に示す施設評価の考え方によって施設を「維持保全」、「更新検討」、「利用検討」、「用途廃止」の4つに分類し評価した上で、施設の位置づけ等の実態を踏まえて、整備・活用方針を定めます。

① 1次判定・2次判定結果を踏まえた評価分類

「立地・利用視点」と「管理視点」の二つの視点からの評価結果（点数）を分析し、「維持保全」、「更新検討」、「利用検討」、「用途廃止」の大きく4つに分類します。

評価分類	分類された施設の特徴
維持保全	施設の状態がよく、維持管理費も少ない。また、災害リスクも低く、利用者が多い施設群。
更新検討	施設が劣化しており、維持管理費も多くかかっている施設だが、災害リスクも低く、利用者が多い施設群。
利用検討	施設の状態がよく、維持管理費も少ない。しかし、災害リスクが高く、利用者も少ない施設群。
用途廃止	施設が劣化しており、維持管理費も多い。また、災害リスクが高く、利用者も少ない施設群。

図 4-2 1次判定・2次判定結果を踏まえた施設評価結果



評価	建物数	構成比
維持保全	2	16.7%
更新検討	0	0.0%
利用検討	9	75.0%
用途廃止	1	8.3%
合計	12	100.0%

更新検討				用途廃止			
立地・利用者視点		管理視点		立地・利用者視点		管理視点	
災害リスク	低	劣化度	大	災害リスク	高	劣化度	大
利用者	多	築年数	古	利用者	少	築年数	古
		維持管理費	多			維持管理費	多
維持保全				利用検討			
立地・利用者視点		管理視点		立地・利用者視点		管理視点	
災害リスク	低	劣化度	小	災害リスク	高	劣化度	小
利用者	多	築年数	新	利用者	少	築年数	新
		維持管理費	少			維持管理費	少

②整備・活用方針

1次判定・2次判定結果を踏まえた施設評価結果をもとに、施設の位置づけ等の実態を踏まえて、整備・活用方針を定めます。

1次判定、2次判定で、用途廃止となった施設についても、町内唯一の施設であることから、「維持保全」を行います。

表 4-3 整備・活用方針（3次判定結果）

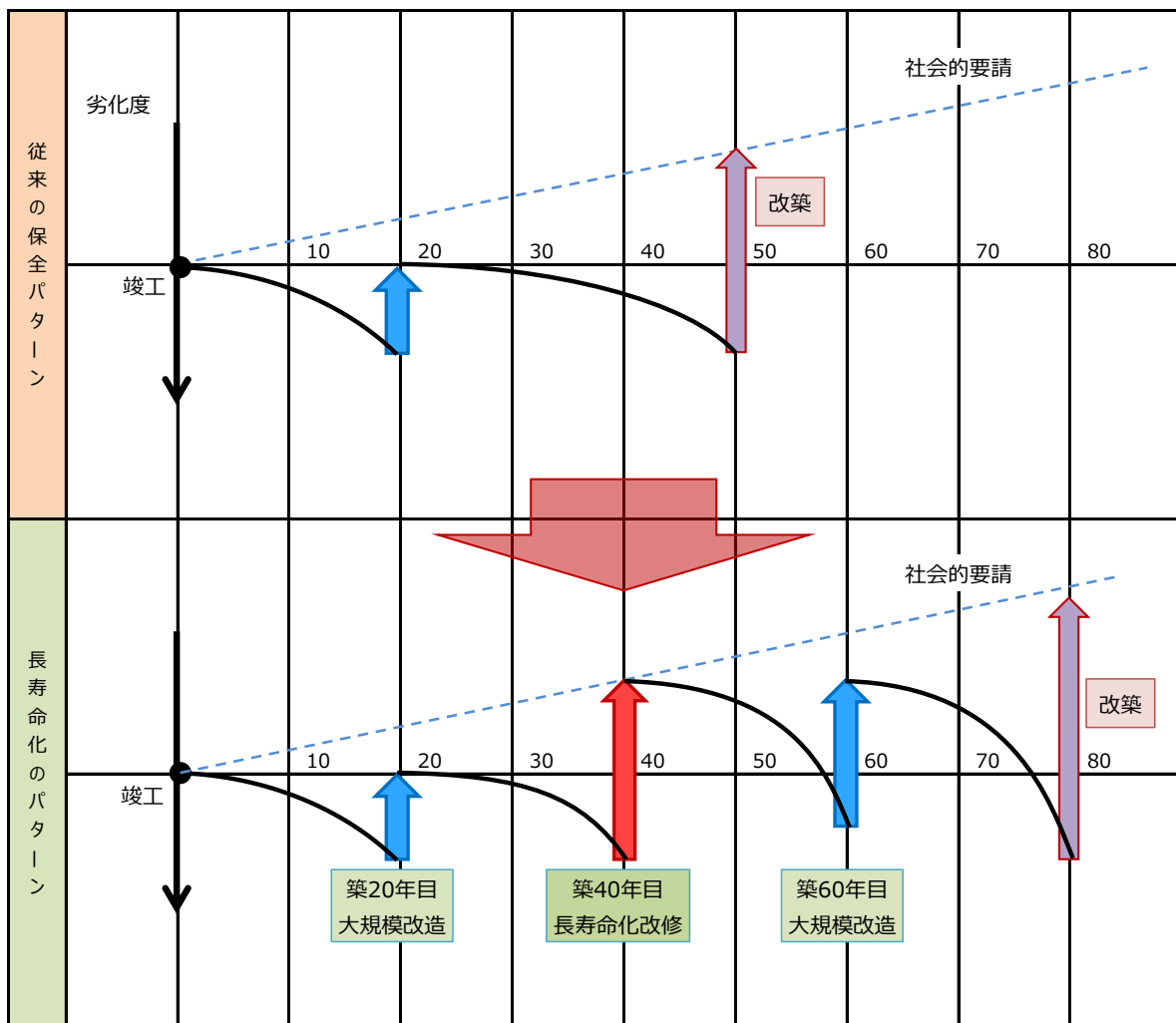
	施設類型	施設名（建物名）	延床面積 (㎡)	建設 年度	構造	3次判定				判定結果
						整備・配置方針				
						1次判定結果	2次判定 結果	施設評価	施設の実態	
1	社会教育施設	幌延町生涯学習センター	1,020.40	H23	S	中長期維持管理	小規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
2	社会教育施設	問寒別生涯学習センター	774.42	H27	S	維持管理	小規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
3	社会教育施設	金田心象書道美術館	448.14	H2	S	中長期維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
4	社会教育施設	郷土資料展示室	336.63	S62	S	維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
5	社会体育施設	総合体育館	3,391.17	S54	SRC	中長期維持管理	中規模	用途廃止	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
6	社会体育施設	幌延町民プール	961.16	S62	S	中長期維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
7	社会体育施設	パークゴルフ場（管理棟）	91.13	H8	W	中長期維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
8	社会体育施設	野球場（本部棟）	120.00	H9	S	中長期維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
9	社会体育施設	野球場（ダッグアウト）	72.50	H9	S	中長期維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
10	社会体育施設	野球場（スコアボード）	31.32	H9	S	中長期維持管理	中規模	利用検討	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
11	社会体育施設	東ヶ丘スキー場（管理棟）	113.40	S54	W	長期維持管理	小規模	維持保全	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全
12	社会体育施設	問寒別町民プール	299.40	H14	S	中長期維持管理	小規模	維持保全	適切な改善を実施し長期的な活用を図る。	維持保全

4 改修等の基本的な方針

(1) 長寿命化の方針

今後は、従来の改築を基本とする施設の更新から、長寿命化改修により使用年数の長期化を図ります。以下に従来の保全パターンから長寿命化のパターンへの転換イメージを示します。原則として、大規模改造は20年、長寿命化改修は40年と設定します。

図 4-3 「従来の保全パターン」から「長寿命化のパターン」への転換



(2) 目標使用年数、改修周期の設定

例えば、鉄筋コンクリート造の学校施設の法定耐用年数は 47 年となっていますが、これは税務上、減価償却費を算定するためのものであり、物理的な耐用年数はこれより長く、適切な維持管理がなされコンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には 70～80 年程度、さらに技術的には 100 年以上持たせるような長寿命化も可能です。

これらを踏まえ、今後は施設の寿命が続く限りにおいて、既存施設を有効活用します。そのため、施設の目標使用年数は概ね 70～80 年と設定し、長寿命化改修の周期を築後 40～50 年、大規模改造の周期を 20 年間隔と設定することとします。

ただし、鉄骨造及び木造の場合は、建物の経年に伴う構造部材の劣化と非構造部材等の劣化が問題となります。構造部分の劣化は、構造性能の低下に直接結びつき、一方、仕上げなどの非構造部分および設備部分における劣化は、当該部材の脱落などの直接的な危険要因となる場合や防水性能の低下など他の部位の劣化を促進し間接的な危険要因となる場合があります。

長寿命化改修に適するかどうかは、目視調査や今後の活用方針を考慮し評価する必要があります。

表 4-4 目標使用年数、改修周期の設定

	使用年数・改修周期
目標使用年数	70～80 年
大規模改造の周期	20 年
長寿命化改修の周期	40～50 年

(参考) 学校や体育館の法定耐用年数

	法定耐用年数
鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造	47 年
鉄骨造	19～34 年※
れんが・石・ブロック造	38 年
木造	22 年

※骨格材の肉厚により異なる

(3) 今後の維持更新コストの比較

【維持管理コスト算定条件】

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)は、長寿命化のイメージに基づくものであり、建物情報一覧表の試算上の区分(長寿命、改築)により更新周期を設定するとともに、躯体以外の劣化状況(A・B・C・D評価)を直近の修繕費に反映して算出します。

■コスト算出の考え方

- ・築年数に応じた時期に、現状と同じ延床面積で改築・改修を行うものと設定
- ・改築、長寿命化改修は2年に工事費を均等配分、大規模改造は単年度で計上
- ・改築及び長寿命化改修の実施年数より古い建物は、今後10年以内にそれらを実施するものとし、該当コストの10分の1の金額を10年間計上
- ・長寿命化改修の実施が可能かどうかを建物毎に判定し、改修周期を設定
 - ①長寿命化可能な建物(試算上の区分が「長寿命」の建物)は、築40年に長寿命化改修、築20年、築60年に大規模改造、築80年に改築すると設定
 - ②長寿命化可能な建物で、基準年時点で築40年を超えている建物は、今後10年以内に長寿命化改修を実施すると設定
 - ③長寿命化改修が実施できない建物(試算上の区分が「要調査」「改築」または未記入の建物)は、長寿命化改修を実施せずに改築(改築までは20年周期で大規模改造を実施)すると設定
- ・今後5年以内にD評価の部位の修繕を、今後10年以内にC評価の部位の修繕を実施すると設定。ただし、改築、長寿命化改修、大規模改造を今後10年以内に実施する場合を除く
- ・今後10年間に長寿命化改修を実施する建物は、長寿命化改修費からA評価の部位修繕相当額を差し引く
- ・プール、グラウンド及び共用設備(受変電、自家発電、受水、排水)等は、必要に応じて別途、費用を計上(「その他施設整備費」欄に記入された金額を基にグラフを作成する。)

維持更新コストの単価設定表

円/㎡

	学校		体育館		住宅		事務所・集会場		その他	
改築	100%	330,000	100%	360,000	100%	280,000	100%	400,000	100%	360,000
長寿命化改修	60%	198,000	60%	216,000	60%	168,000	60%	240,000	60%	216,000
大規模改造	25%	82,500	22%	79,200	25%	70,000	25%	100,000	25%	90,000

※単価は公共施設等総合管理計画の施設類型別の単価を使用

基準年度	2021	試算期間：基準年度の翌年度から40年間
------	------	---------------------

コスト試算条件

	従来型		長寿命化型		備考
	周期	工事期間	周期	工事期間	
改築	50年	2年	80年	2年	* 実施年数より古い建物の改築を10年以内に実施
長寿命化改修	—	—	40年	2年	* 実施年数より古い建物の改修を10年以内に実施
大規模改造	20年	1年	20年	1年	* 大規模改造は改築、長寿命改修の前後10年以内は実施しない

部位修繕

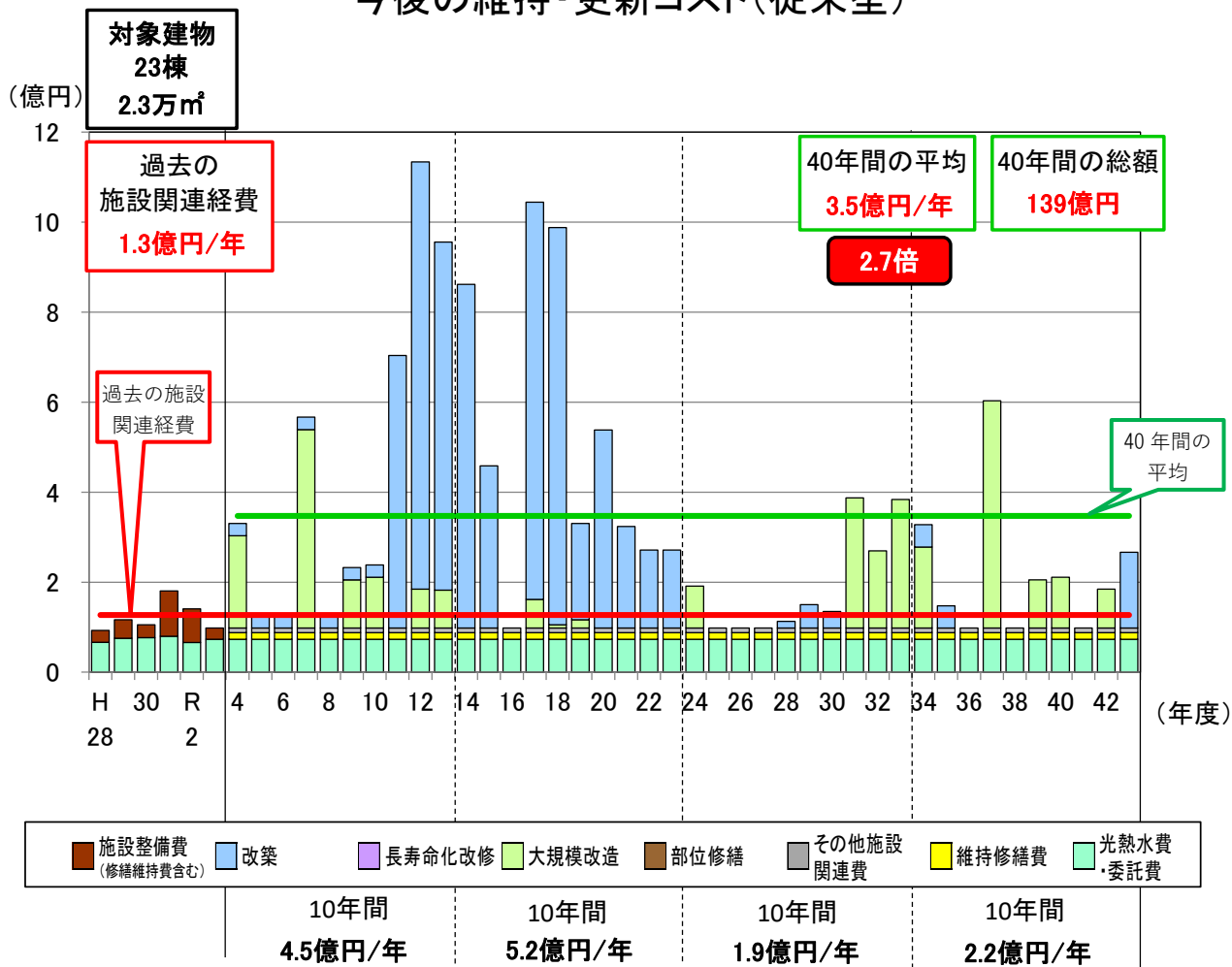
評価	試算条件	
D評価	今後5年以内に部位修繕を実施	ただし、改築・長寿命化改修・大規模改造を今後
C評価	今後10年以内に部位修繕を実施	10年以内に実施する場合を除く
A評価	今後10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く	

①従来型の維持・更新コスト

今後も従来のように、法定耐用年数に沿った改築中心の建替事業を行っていくと、今後 40 年間で約 139 億円の費用が掛かり、年間の平均費用にすると約 3.5 億円／年で、直近 5 箇年の施設関連経費の約 2.7 倍となることが想定されます。

下図をみると、今後 10 年間に多額の改築費用が見込まれ、年度によっては 10 億円を超える費用が発生しています。

今後の維持・更新コスト(従来型)



②長寿命化型の維持・更新コスト

今後、従来型の改築中心の建替事業から、長寿命化型の改修を行い、施設の長寿命化を図っていくと、40年間で約128億円の費用が掛かり、平均費用は約3億円／年で、直近5箇年の施設関連経費の約2.5倍となることが想定されますが、従来型と比べ約0.5億円／年の削減が見込まれます。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)

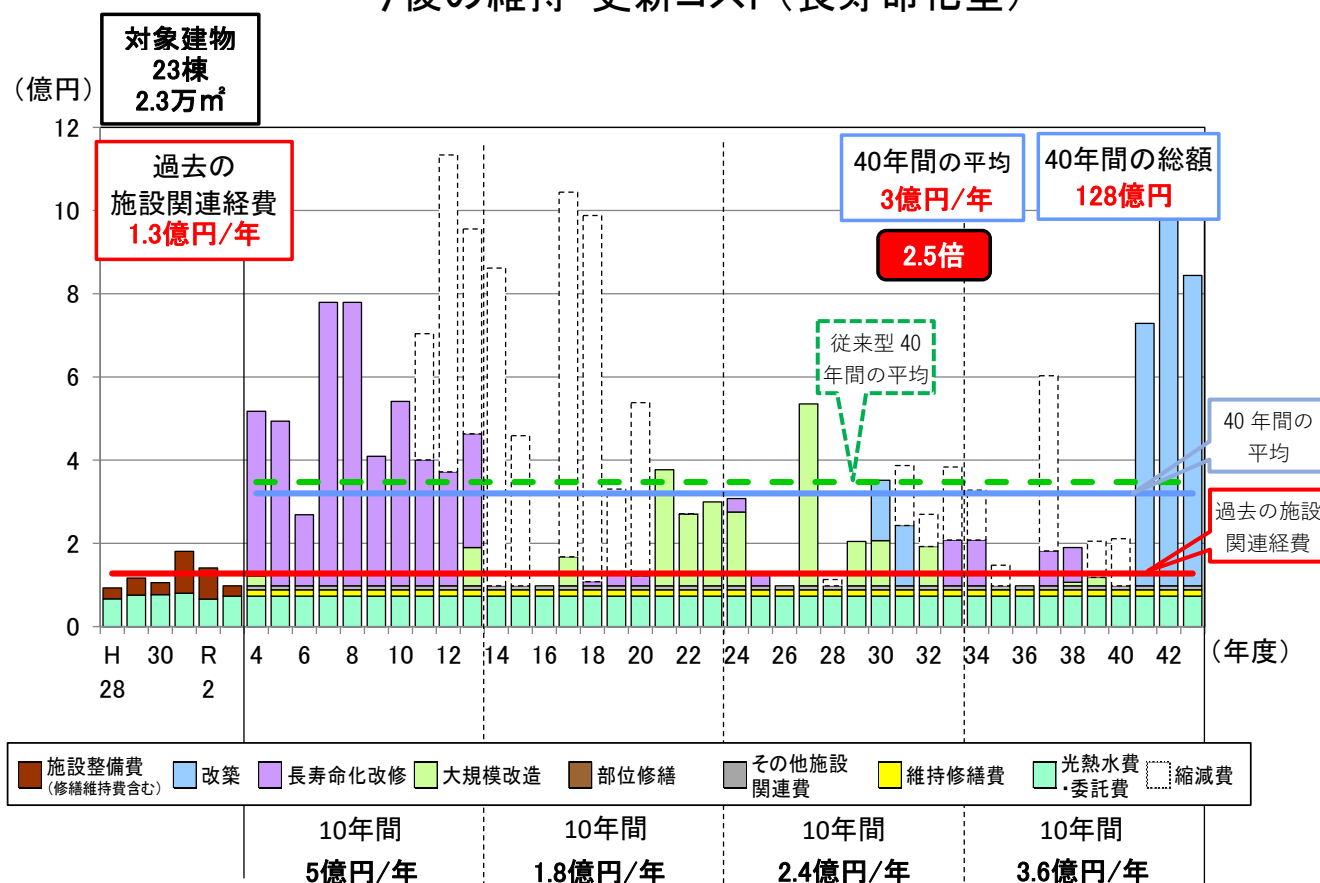


表 4-5 今後の維持・更新コストの比較

	条件	過去の施設 関連経費	今後10年間 の平均	今後40年間 の平均	今後40年間 の総額
従来型	更新周期：50年 改修周期：20年	約1.3億円/年	約4.5億円/年	約3.5億円/年	約139億円
長寿命化型	更新周期：80年 改修周期：20年（大規模改造） ：40年（長寿命化改修）		約5億円/年	約3億円/年	約128億円

5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

改修工事の実施にあたっては、教育施設の老朽化状況の実態を踏まえ、構造体の長寿命化や設備等の更新によって建物の耐久性を高めるとともに、省エネ化や ICT 化など多様な学習形態による活動が可能となる環境の提供など、社会的要請や教育活動の将来展望に応えることのできる改修を目指します。

特に、学校施設改修の整備水準は、「学校施設の目指すべき姿」を踏まえ、施設の基本的性能の向上を図るとともに、省エネやバリアフリー、防災・防犯などの機能及び性能の向上を目指し、建物の整備レベルの統一を図ります。

表 4-6 学校施設整備水準の例

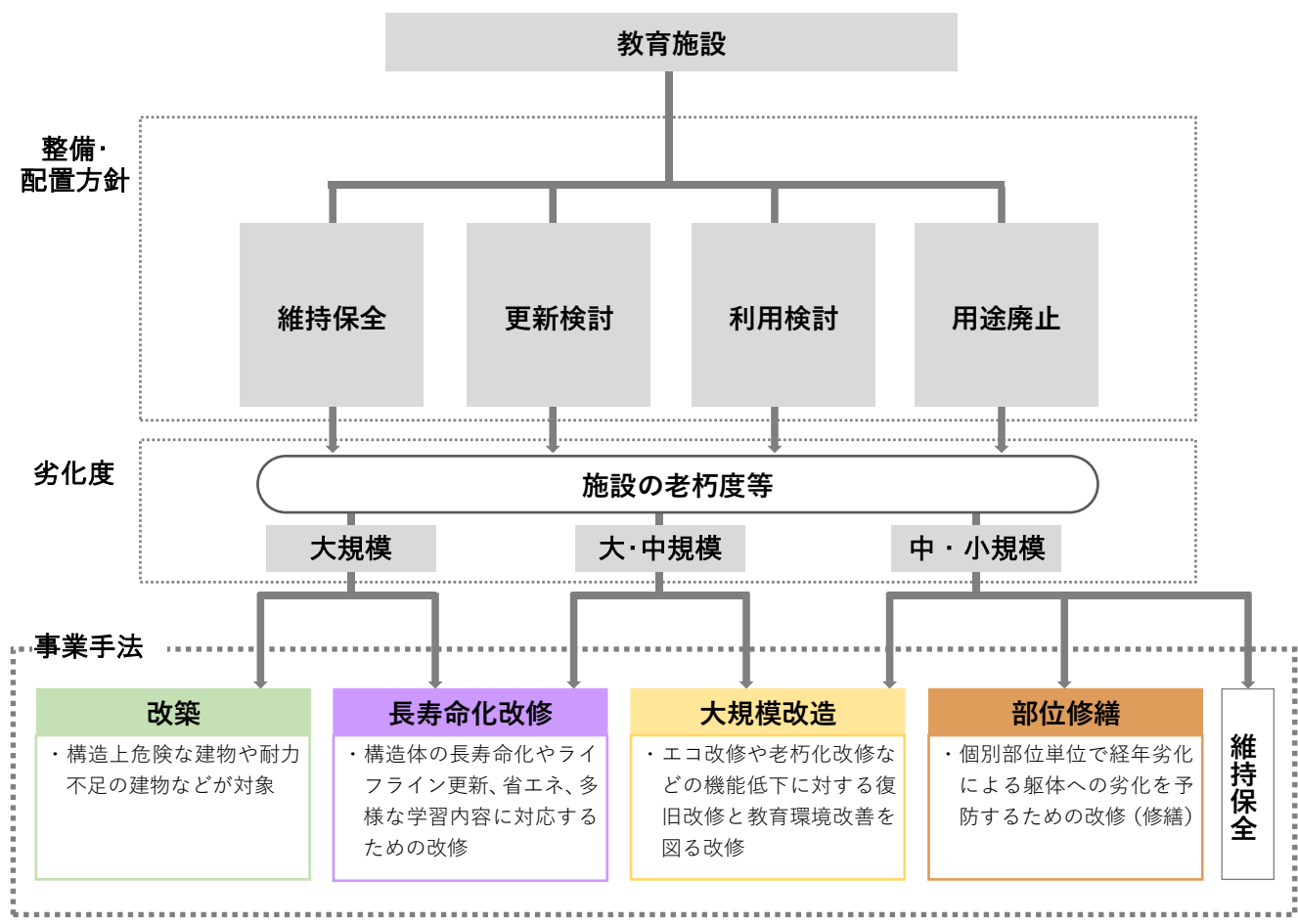
部位		改築	長寿命化改修	大規模改造	現状レベルの 部位修繕	現状の整備レベル
外部 仕 上 げ	屋根・屋上	外断熱保護防水 (断熱材 50mm) (既存撤去) ガルバリウム鋼板	ウレタン塗膜防水 (断熱材 25mm) (既存撤去) ガルバリウム鋼板	ウレタン塗膜 防水 全面塗装	塗膜防水等 板金塗装 (断熱無)	アスファルト防水 板金塗装
	外壁	ガルバリウム鋼板 他		全面塗装 クラック補修	外壁塗装 (現状と同レベル)	複層・厚付塗材
		外断熱	内断熱補強		既存のまま	既存のまま
	外部開口部	高性能樹脂サッシ (Low-E 複層ガ ラス)	内窓樹脂サッシへ の交換 (複層ガラス)	シーリング 打ち替え・ 開閉調整	既存のまま	アルミサッシ
	その他外部	日射抑制装置設置	庇・ルーバー等を 設置	庇等を設置しない		既存のまま
内部 仕 上 げ	内部仕上	内装の全面撤去・更新 (木質化)		床補修 壁・天井塗替え (部分補修)		既存のまま
	トイレ	内装ドライ化 洋式節水型便器 多目的トイレ	内装の全面撤去・ 更新 (ドライ化) 節水型便器へ交換 多目的トイレ整備	多目的トイレ 整備	床補修 壁・天井塗替え (部分補修)	既存便器のまま
設 備	暖房	床暖房・地中熱ヒートポンプ		既存設備更新	既存のまま	既存のまま (FF 式暖房機 等)
	照明	LED 照明			既存のまま	蛍光灯 等

第5章 長寿命化の実施計画

1 優先順位の考え方

教育施設の改修等は、先に示した教育施設の整備・配置方針を踏まえた上で、長寿命化型の保全パターンによる改修周期をベースとし、改善実績、現在の劣化状況、教育環境向上や整備費の平準化等に配慮し計画的に実施します。

図 5-1 優先順位の考え方



2 施設管理の長期的見通し

優先順位の検討の結果を踏まえ、今後 40 年間における管理の見通しを次のように設定します。

表 5-1 長期的な管理の見通し

	施設名	建物名	構造	延床 面積 (㎡)	建築 年度	築 年 数	劣化度評価						令和4～13年 2022～31		令和14～23年 2032～41		令和24～33年 2042～51		令和34～43年 2052～61	
							屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	幌延小学校	校舎1	RC	2,442	1981	40	C	C	B	B	C	58	長寿命化改修				大規模改造			
2	幌延小学校	校舎2	RC	1,284	1982	39	C	C	B	B	C	58	長寿命化改修				大規模改造			
3	幌延小学校	校舎（配膳室）	RC	44	1990	31	B	C	B	B	B	65	長寿命化改修				大規模改造			
4	幌延小学校	屋体（渡り廊下含）	S	902	1982	39	C	C	B	B	B	62	長寿命化改修				大規模改造			
5	幌延中学校	校舎	S	4,069	1985	36	C	C	B	C	C	53		長寿命化改修				大規模改造		
6	幌延中学校	屋体（2F渡り廊下含）	S	1,278	1985	36	C	C	B	B	B	62		長寿命化改修				大規模改造		
7	問寒別小中学校	校舎1（左側廊下含）	RC	2,080	1980	41	A	A	C	C	C	62			大規模改造				活用方針再検討	
8	問寒別小中学校	特別教室棟	RC	340	1968	53	A	A	A	C	C	85			大規模改造				活用方針再検討	
9	問寒別小中学校	屋体1（廊下入口含）	S	1,369	1988	33	A	A	A	B	B	84			大規模改造				活用方針再検討	
10	問寒別小中学校	屋体2（廊下含）	S	494	1968	53	B	A	A	C	C	83			大規模改造				活用方針再検討	
11	幌延町学校給食センター	学校給食センター（渡り廊下含）	S	559	1990	31	B	B	B	B	B	75			長寿命化改修				大規模改造	
12	幌延町生涯学習センター	幌延町生涯学習センター	S	1,020	2011	10	A	A	A	A	A	100			大規模改造				長寿命化改修	
13	問寒別生涯学習センター	問寒別生涯学習センター	S	774	2015	6	A	A	A	A	A	100				大規模改造				
14	金田心象書道美術館	金田心象書道美術館	S	448	1990	31	A	B	B	B	B	77			長寿命化改修				大規模改造	
15	郷土資料展示室	郷土資料展示室	S	337	1987	34	C	B	B	B	B	72		長寿命化改修				大規模改造		
16	総合体育館	総合体育館	SRC	3,391	1979	42	B	C	B	C	C	56	大規模改造		長寿命化改修				大規模改造	
17	幌延町民プール	幌延町民プール	S	961	1987	34	A	C	B	A	A	74			長寿命化改修				大規模改造	
18	パークゴルフ場	管理棟	W	91	1996	25	A	A	A	B	B	94				長寿命化改修				
19	野球場	本部棟	S	120	1997	24	B	B	B	B	B	75	長寿命化改修				長寿命化改修			
20	野球場	ダックアウト	S	73	1997	24	B	B	B	B	B	75	長寿命化改修				長寿命化改修			
21	野球場	スコアボード	S	31	1997	24	B	B	B	B	B	75	長寿命化改修				長寿命化改修			
22	東ヶ丘スキー場	管理棟	W	113	1979	42	A	A	A	A	A	100					長寿命化改修			
23	問寒別町民プール	問寒別町民プール	S	299	2002	19	A	B	A	A	B	90		大規模改造						

3 計画期間内の実施計画

計画期間内においては、以下の事業を見込みます。

表 5-2 計画期間内における実施計画

	施設名	建物名	構造	延床 面積 (㎡)	建築 年度	築 年 数	劣化度評価						計画期間 事業手法	計画期間（前期） （単位：千円）					計画期間（後期） （単位：千円）					合計							
							屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全 度		令和4年 2022	令和5年 2023	令和6年 2024	令和7年 2025	令和8年 2026	令和9年 2027	令和10年 2028	令和11年 2029	令和12年 2030	令和13年 2031								
1	幌延小学校	校舎1	RC	2,442	1981	40	C	C	B	B	C	58	長寿命化改修	実施設計の前に、小学校、中学校について、それぞれ長寿命化、集約化して長寿命化、一貫校化などを総合的に検討する。				実施設計	43,960	長寿命化改修	219,780	長寿命化改修	219,780							483,520	
2	幌延小学校	校舎2	RC	1,284	1982	39	C	C	B	B	C	58	長寿命化改修					実施設計	23,110	長寿命化改修	115,560	長寿命化改修	115,560							254,230	
3	幌延小学校	校舎（配膳室）	RC	44	1990	31	B	C	B	B	B	65	長寿命化改修					実施設計	790	長寿命化改修	3,960	長寿命化改修	3,960							8,710	
4	幌延小学校	屋体（渡り廊下含）	S	902	1982	39	C	C	C	B	B	62	長寿命化改修					実施設計	16,240	長寿命化改修	88,560	長寿命化改修	88,560							193,360	
5	幌延中学校	校舎	S	4,069	1985	36	C	C	B	C	C	53	長寿命化改修							実施設計	73,240	長寿命化改修	366,210	長寿命化改修	366,210						805,660
6	幌延中学校	屋体（2F渡り廊下含）	S	1,278	1985	36	C	C	C	B	B	62	長寿命化改修							実施設計	25,100	長寿命化改修	125,480	長寿命化改修	125,480						276,060
7	問寒別小中学校	校舎1（左側廊下含）	RC	2,080	1980	41	A	A	C	C	C	62	維持保全																		0
8	問寒別小中学校	特別教室棟	RC	340	1968	53	A	A	A	C	C	85	維持保全																		0
9	問寒別小中学校	屋体1（廊下入口含）	S	1,369	1988	33	A	A	A	B	B	84	維持保全																		0
10	問寒別小中学校	屋体2（廊下含）	S	494	1968	53	B	A	A	C	C	83	維持保全																		0
11	幌延町学校給食センター	学校給食センター（渡り廊下含）	S	559	1990	31	B	B	B	B	B	75	維持保全																		0
12	幌延町生涯学習センター	幌延町生涯学習センター	S	1,020	2011	10	A	A	A	A	A	100	維持保全																		0
13	問寒別生涯学習センター	問寒別生涯学習センター	S	774	2015	6	A	A	A	A	A	100	維持保全																		0
14	金田心象書道美術館	金田心象書道美術館	S	448	1990	31	A	B	B	B	B	77	維持保全																		0
15	郷土資料展示室	郷土資料展示室	S	337	1987	34	C	B	B	B	B	72	長寿命化改修									実施設計	7,340	長寿命化改修	73,450						80,790
16	総合体育館	総合体育館	SRC	3,391	1979	42	B	C	B	C	C	56	大規模改造	実施設計	66,590	大規模改造	332,950														399,540
17	幌延町民プール	幌延町民プール	S	961	1987	34	A	C	B	A	A	74	維持保全																		0
18	パークゴルフ場	管理棟	W	91	1996	25	A	A	A	B	B	94	維持保全																		0
19	野球場	本部棟	S	120	1997	24	B	B	B	B	B	75	長寿命化改修	長寿命化改修	10,800																10,800
20	野球場	ダックアウト	S	73	1997	24	B	B	B	B	B	75	長寿命化改修	長寿命化改修	6,530																6,530
21	野球場	スコアボード	S	31	1997	24	B	B	B	B	B	75	長寿命化改修	長寿命化改修	2,820																2,820
22	東ヶ丘スキー場	管理棟	W	113	1979	42	A	A	A	A	A	100	維持保全																		0
23	問寒別町民プール	問寒別町民プール	S	299	2002	19	A	B	A	A	B	90	大規模改造								実施設計	2,450	大規模改造	24,500							26,950
事業費 計（千円）														86,740	332,950	84,100	427,860	526,200	491,690	494,140	31,840	73,450	0	2,548,970							

本計画期間内に想定された事業費については、年平均で約 1.5 億円のコストの縮減となりますが、本計画期間後は、現状の教育施設数を維持した場合、老朽施設が改築周期を迎えるなど、本計画期間に比べコストの大幅な増加が想定されます。

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



(百万円) 【1.5 億円/年の縮減】



- ・大規模改造・部位修繕：表 5-2「計画期間内における実施計画」参照（P56）
- ・その他施設関連費、維持修繕費、光熱水費、委託費：平成 27～31 年度平均（P20 参照）

第6章 長寿命化計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

施設を適正に管理していくために、学校施設の基本的情報や改修等の履歴、劣化状況などを一元的に管理し、施設の長寿命化を計画的に進めていきます。

また、建築基準法第12条点検の結果なども活用し、老朽具合の状態を把握しながら予防保全型の施設管理を進めていきます。

2 推進体制等の整備

効果的な学校施設の維持管理のため、一定の技術的見地からの判断も必要となることから、町部局の建築担当職員との連携や民間業者への委託など、長寿命化計画の効果的、継続的な運用に努めていきます。

3 フォローアップ

本計画は5年ごとに見直すことを基本としていますが、計画期間においては大規模改修等を継続的に行っていく見込みであります。

年度ごとに進捗を含めて評価し、PDCAサイクルでの管理を行いながら、適正なフォローアップを行っていきます。